



学校法人 城西大学

<http://www.josai.jp/>

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学 <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

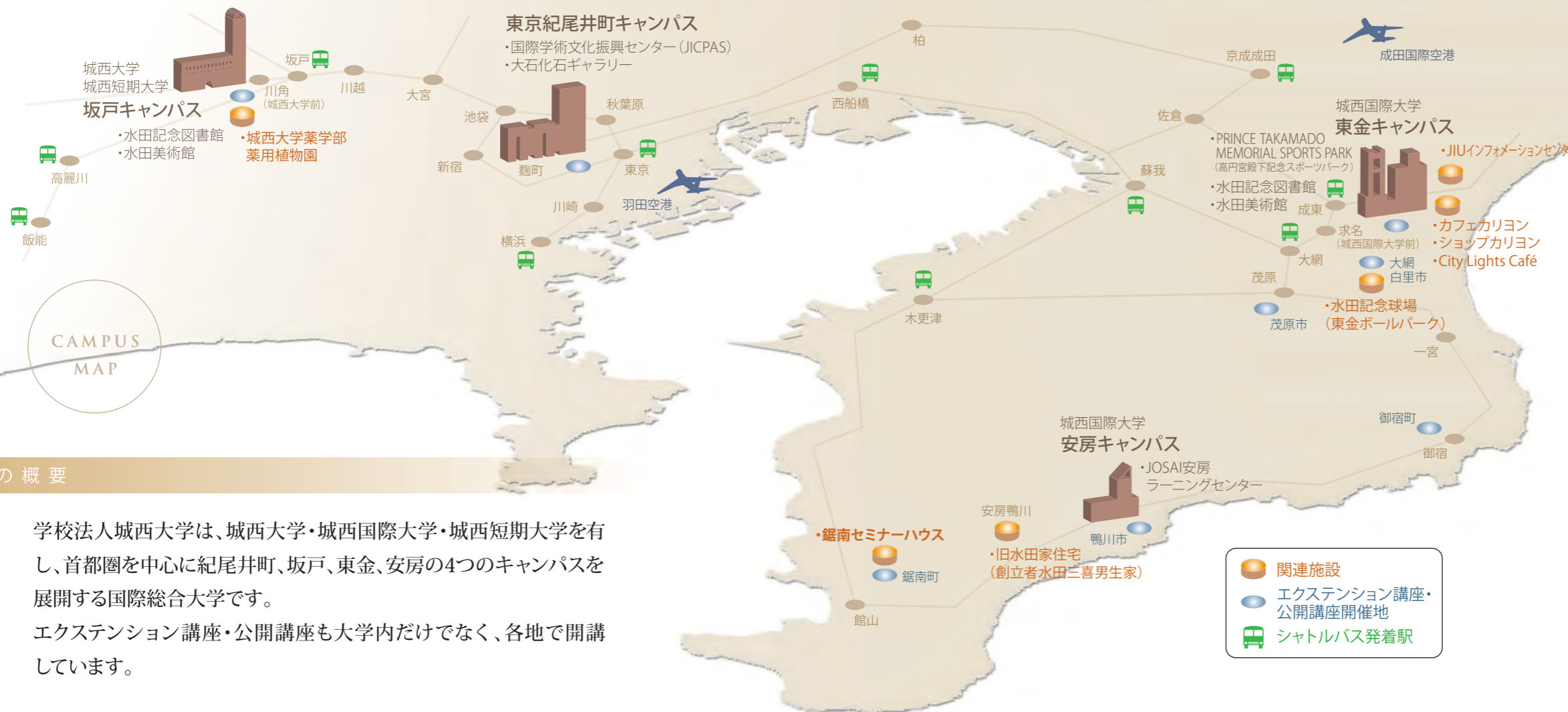
2014

JOSAI UNIVERSITY

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学



大学の概要

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を有し、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房の4つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
 エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 経済学科
- 現代政策学部 社会経済システム学科
- 経営学部 マネジメント総合学科
- 理学部 数学科
- 化学科
- 薬学部 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 経済学研究科 (経済政策専攻修士課程)
- 経営学研究科 (ビジネス・イノベーション専攻修士課程)
- 理学研究科 (数学専攻修士課程)
- 理学研究科 (物質科学専攻修士課程)
- 薬学研究科 (薬学専攻博士課程)
- 薬学研究科 (薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程)
- 薬学研究科 (医療栄養学専攻博士前期課程)
- 別科 日本語専修課程
- 日本文化専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 総合経営学科
- 国際人文学部 国際文化学科
- 国際交流学科
- 福祉総合学部 福祉総合学科
- 薬学部 医療薬学科(6年制)
- メディア学部 メディア情報学科
- 環境社会学部 環境社会学科
- 看護学部 看護学科
- 大学院 人文科学研究科 (国際文化専攻修士課程・女性学専攻修士課程・比較文化専攻博士後期課程・グローバルコミュニケーション専攻修士課程)
- 国際アドミニストレーション研究科 (国際アドミニストレーション専攻修士課程)
- 経営情報学研究科 (起業マネジメント専攻修士課程・同博士後期課程)
- ビジネスデザイン研究科 (ビジネスデザイン専攻修士課程)
- 福祉総合学研究科 (福祉社会専攻修士課程)
- 薬学研究科 (医療薬学専攻(博士課程 4年制))
- 留学生別科 日本文化・ビジネス専修課程
- 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 ウェルネスツーリズム学科

城西短期大学〈城西ベースカレッジ〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス
 ビジネス総合学科

東京紀尾井町キャンパス
 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
 TEL. 03-6238-1300

坂戸キャンパス
 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
 TEL. 049-286-2233

東金キャンパス
 〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地
 TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
 〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
 TEL. 04-7098-2800

CONTENTS

- 3 理事長 緒言
次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み
大学の社会的責任を果たすために
- トピックス
- 5 創立50周年関連
- 地域・社会貢献活動
- 9 産・官・学連携
- 11 地域との交流・連携—紀尾井町キャンパス
- 13 地域との交流・連携—埼玉・坂戸地域の活性化
- 17 地域との交流・連携—千葉・東金・鴨川地域の活性化
- 国際社会への貢献
- 23 中欧・北欧との国際交流の進展
- 25 アジア地域との国際交流の進展
- 27 広がる国際交流
- 次世代育成 / 文化・スポーツ振興
- 35 文化・スポーツ・メディア振興
- 39 国際人材の育成
- 42 子どもたちとともに
- 44 学生の活動
- 46 建築賞受賞
- 47 美術館
- 49 Message
- 50 編集後記

各記事タイトル横のロゴマーク
 : 主に城西大学関連
 : 主に城西国際大学関連
 の活動の紹介です。



学校法人城西大学
理事長
水田宗子

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み 大学の社会的責任を果たすために

2014 JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に4つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。

城西大学は2015年に創立50周年を迎えます。2011年に本学は、幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材を育成し、アジア・世界でのリーディング・ユニバーシティになることを中期目標《J-Vision》として掲げました。この目標の実現に向けて、全学一丸となって取り組んでいます。

2014年度におけるこれらの代表的な取り組みについて本冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動 学校法人城西大学各キャンパスにおいて、地域の社会や文化・経済・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行なっています。また、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を学内・外で開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。

城西大学では、創立50周年に向けて、地域・行政と連携して教育・研究・社会貢献を目指すプロジェクト「JCLIP」をスタートしてさまざまな活動を行うとともに、多くの関連行事、シンポジウム等を行いました。特に、9月16日には、埼玉県との共催で、世界の第一線で活躍する女性リーダーを招いた国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」を開催しました。

城西国際大学は、1年を通してさまざまな学術シンポジウムや国際交流活動、各種の地域イベント等を積極的に展開しました。高円宮殿下記念スポーツパークにおいては少年サッカー大会を行い、地域振興に貢献しています。

産学官連携では、日活やエイベックス・プランニング&デベロップメント社、サンミュージック等との提携により、本学ならではの特長ある次世代人材育成プログラムを数多く推進しています。日活撮影実習で制作した短編映画「紙ひこうき」は、「はままつ映画祭2014」にて観客賞第1位を受賞しました。また、産学官協働事業の拠点となるイノベーションセンターや、世界でリーダーシップを発揮できる人材育成教育を目的とした大学院センター等で積極的な活動を展開しています。

さらに、政策提言活動として2015年3月には、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「ヴィシエグラード4カ国(V4)+日本 科学技術セミナー」が、外務省、V4諸国の在京大使館、本学の共催により開催されました。

なお、東京紀尾井町キャンパスは一層拡充され、5棟を有し、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化と国際教育の充実を図っています。

国際社会への貢献 国際性・専門性を備えたグローバル人材の育成を目指して、世界各地の大学と教育ネットワークを結び、各種の国際教育プログラムを積極的に実施しています。

その中でも、本学は特に中欧ヴィシエグラード4カ国(チェコ・ハンガリー・ポーランド・スロバキア)とアセアン諸国との間の教育交流を強化しており、昨年度もこれらの地域の大学と新たに学術交流協定を締結し、国際交流を通じたグローバル人材育成に力を入れてきました。2013年11月にハンガリーのオルバーン首相のご来学の際に設立し、中欧地域とのさらなる共同研究・学術交流・人材育成の推進、教育支援を目的とした中欧研究所には、ハンガリー政府との協力を通じて、ハンガリーのデブレツェン大学、ペーチ大学より教授を迎え入れ、様々な勉強会・セミナーを開催いたしました。

その他の国や地域との交流も進み、今年度は海外の19大学や機関と新たに学術交流協定を締結しました。

文化振興・文化資源保存活動 学校法人城西大学は、両大学に水田記念美術館を有し、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展などを催しており、多くの方々にご来場いただいております。そして、紀尾井町キャンパス3号棟には、数々の貴重な化石標本を収蔵する「大石化石ギャラリー」も開設しています。

また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々と一緒に、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、各キャンパスの建物や美術館や旧水田家住宅などにおいて、国内外で多くの建築賞を受賞しています。

そして、これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に社会に貢献し、次世代に文化を伝え、人材を育成するとともに健康で豊かな暮らしを実現するために大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2015年3月

学校法人城西大学
理事長

水田宗子

創立50周年関連(施設・設備)

1965年に設立された学校法人城西大学は、2015年に創立50周年を迎えます。これからの50年を見据えた一歩を踏み出すために、創立50周年記念行事・イベント等を開催しております。ここではその取り組みについてご紹介いたします。

紀尾井町キャンパスに5号棟がオープン

2015年2月12日、学校法人城西大学は、創立50周年の記念事業として東京紀尾井町キャンパス3号棟隣に新校舎の5号棟をオープンさせ、オープニングのテープカット式が行われました。

水田宗子理事長はテープカットに先立ち、皆さまへの感謝を述べるとともに、盛んに行われている入試・就職関連の活動や同窓会活動の拠点となることを大いに期待しています、と挨拶しました。

5号棟は、地下1階、地上5階建てで延べ面積は約1400平方メートル。1階には、入試・広報センター、維持協力会・父母後援会・同窓会室があります。2～4階には、ミニ・シアター、学習室などが設けられました。5階は、海外姉妹校からの中・長期滞在用のゲストルームを設けてあります。

2005年に開設された紀尾井町キャンパスでは、現在、学生、院生ら約2000人が学んでいます。

1階奥にある同窓会室はたいへん広く、全国からお集まりいただいた同窓会支部の皆さんもとてもよこんでおられました。

ぜひ多くの同窓生の皆さまにご活用いただきたいと願っています。



新校舎5号棟



同窓会室

坂戸キャンパスの拡充

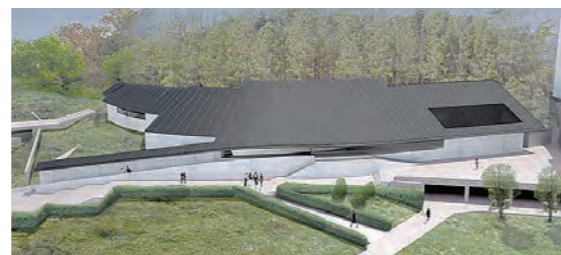
50周年事業の一環として、坂戸キャンパスに新薬学部棟ならびに水田三喜男記念館を新設いたします。

新薬学部棟は9階建て、アイトップセンターと現在の6号館にあるほとんどの機能を担います。世界的に有名なカルフォルニア大学ロサンゼルス校の阿部仁史先生の設計によって、実習室や研究室はまさに世界の先端施設に変わります。

また水田三喜男記念館は、学生はもとより地域へも広く開かれ、多くの人々と城西大学の歴史とこれからの未来図を共有するためのファウンダーズルームエリア、各国からの要人を含むVIPを迎えるゲストエリアの2つのエリアから構成されます。併せて、レセプションや企画展示、ワークショップなど多様な活動を行うための多目的ラウンジスペースも設置し、国際教育や地域連携の拠点として、城西の丘から世界へ発信していきます。



完成予想図(新薬学部棟)



完成予想図(水田三喜男記念館)

創立50周年関連(施設・設備)

[50周年記念事業] 安房グローバル・ヴィレッジ起工式

2014年12月1日、学校法人城西大学は、工事関係者及び地元の来賓ら約150名をお迎えし、法人創立50周年記念事業の一環として安房ラーニングセンターの隣接地に国際留学生寮安房グローバル・ヴィレッジ(仮称)を建設するための起工式を執り行いました。

かねてより本学はグローバル人材育成と地域貢献を目標に掲げ、留学生を積極的に受け入れ、国際教育や地域との交流に力を入れてきました。安房グローバル・ヴィレッジを建設することで、さらなる国際教育の基盤整備・推進を図り、また、多国間の学生同士や地域の交流の場として活用していきます。

施設の収容人数は101名、延べ床面積は2003平方メートル、交流の場として中庭を配しています。完成は2015年7月を予定しており、同年9月入学の留学生を対象として受け入れを始めます。

グローバルな視点を持った観光人材の育成とともに、さらなる地域交流の充実がはかれるものと期待しています。



安房グローバルヴィレッジ完成モデル



工事の無事を祈る関係者

[50周年記念事業] 東金グローバル・ヴィレッジ起工式

2014年12月11日、東金キャンパスにおいて、城西国際大学・東金キャンパス留学生会館 国際学生寮グローバル・ヴィレッジ(仮称)の起工式が行われました。

この留学生会館は、法人創立50周年記念事業の一環としてPRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)の敷地内に建設します(竣工は2015年12月を予定)。

主に留学生対象の学生寮で国際交流活動の拠点となる「インターナショナルセンター」も併設します。

さらに、創立者である水田三喜男先生の「創立者ホール」や、国際交流活動に尽力された高円宮殿下のご功績を称える「高円宮殿下記念展示コーナー」など、学生や地域との交流活動に資する設備を整えていく予定です。

城西国際大学では、グローバルな視野を持って社会に貢献できる人材の育成をさらに推進していきます。



東金キャンパス留学生会館グローバル・ヴィレッジ完成予想図



厳かな雰囲気の中での起工式

創立50周年関連(イベント)

柄谷行人氏による講演会「山人と山姥」開催  

2014年12月10日、紀尾井町キャンパスにおいて、哲学者で評論家の柄谷行人氏による講演会「山人と山姥」が開催されました。

柄谷氏は文芸批評から出発しながらも、マルクスやカントなどを論じ、その枠に収まらない根源的思考を展開されてきました。2014年1月、「山人」を捨て「常民」に向かったとされる柳田国男を考察した『遊動論 柳田国男と山人』(文春新書)を上梓されました。

柄谷氏が講演を行われるのはまれですが、かねてからジェンダーなどをテーマにした対談などで親交のある水田理事長が柄谷氏に依頼し、今回の講演会が実現しました。

柄谷氏は世阿弥の『山姥』や馬場あき子氏の『鬼の研究』などを引用しながら、「山人は山地民や平地民とは違い、定住に関心がない。柳田によると、いわば天狗のような表徴としての存在。また、山姥も野の女や里の女と異なり山人であるということの水田さんの論文から学んだ。山姥は性差への反発がなく、ジェンダーを超えた存在」と話されました。

講演後は柄谷氏を囲んでのレセプションが開かれ、柄谷氏と親しい、詩人で本学客員教授の吉増剛造氏より「今日の講演は革命的に面白く、果てしなく聴いていたい内容だった。本学でこんな素晴らしい人のこんな良い話が聴けることは嬉しいことです」と述べるなど、大変意義深い講演会となりました。



講演する柄谷行人氏



創立50周年を記念した講演会

牧野成一氏、清水義明氏による「創立50周年記念連続講演会」を開催  

本学では、牧野成一氏(米国・プリンストン大学名誉教授、城西国際大学特任教授)、そして清水義明氏(米プリンストン大名誉教授(美術・考古学))のお二方をお招きし、「創立50周年記念連続記念講演会を開催いたしました。

2015年2月23日、牧野氏による「日本語教育の新しい扉を開くーウチとソトの言語文化による日本語教育の再構築ー」を開催し、「ウチ・ソト」双方から見る日本、そして「ヨソ」としての海外・異文化における社会文化モデルと言語の関係との比較についてお話いただきました。そして集団主義的であるところの「日本語」には、実は、「英語」などの西洋語以上に、「個」の意識に根ざした言語体系が存在しているとお話されました。

また翌24日には、清水氏による「伊藤若冲の諸作品と仏教の『本覚思想』の主張」を開催しました。

伊藤若冲(1716~1800年)は、光琳の装飾画風を取り入れるなどして独特の造形感覚による個性的な画風を生みだし、「奇想の画家」として知られます。また「本覚思想」とは、悟りはもともと一切の衆生に本来的に具有されているとの考えで、主に天台宗を中心として仏教界全体に広まったとされます。

今後も本学では、50周年記念事業の一環として、魅力的な講演会等様々な企画を多数開催してまいりますので、是非ご期待ください。



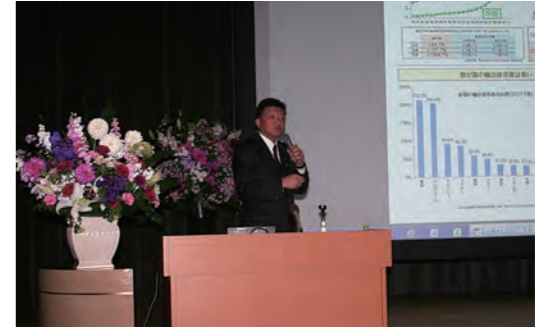
清水義明氏による講演会

創立50周年関連(イベント)

新藤義孝・前総務大臣による特別講演会「地域の元気の塊を日本の元気に」 

前総務大臣の新藤義孝氏の特別講演会が2014年11月17日、城西大学坂戸キャンパスの清光ホールで開かれました。大学創立50周年と経済学部創設50周年を記念したもので、学生や留学生、教職員、一般の方々とホールは満杯となりました。

総務大臣として地方分権改革や国家戦略特区などに取り組んできた新藤氏は、「日本の目指す道」と題した講演で、「この20年間、日本の経済は横ばいで人口減も深刻」と現状を説明した上で、「それぞれの自治体がアイデアを実行することで、地域の元気の塊かたまりを日本の元気にすることが必要」と強調しました。また、日本の排他的経済水域には多くの資源が埋蔵されているとして、「日本は海洋資源大国になるべきだ」と指摘しました。学生の質問に答えた新藤氏は最後に「物事にはなんでも最初の一人がいる」とチャレンジ精神の必要性を訴えました。



新藤義孝・前総務大臣

ミャンマー出身のティティレイ先生の講演会を開催 

2014年11月26日、城西大学創立50周年記念行事の一環として、薬学部、理学部、薬学研究科および理学研究科の4者主催の基、学校法人城西大学多文化共生センター研究員でミャンマー出身のティティレイ先生の講演会を開催しました。

本講演会では、本学森本雅憲学長および学校法人城西大学イノベーションセンター所長である土居征夫先生にもご在席いただき「科学技術を通じたグローバルコミュニケーション」と題し、約170名強の薬学・理学の教員および学生の前で、大変わかりやすく科学者のグローバル化の必要性についてお話いただきました。



土居征夫先生(左)とティティレイ先生(右)

50周年記念 新種のバラ 植樹式「Noriko Mizuta Josai 50」 

第47回高麗祭初日の2014年11月2日、坂戸キャンパスの水田清子記念ローズガーデンで、2015年の創立50周年を記念した新種のバラ「Noriko Mizuta Josai 50」の植樹式がありました。

このバラは、「城西大学薬学協会(木村恵会長)」が手がけた新種のバラで、香り豊かで、気品を感じさせるピンクの大輪となります。そしてこのたび、城西大学が50周年を迎えるにあたり、そのバラを「Noriko Mizuta Josai 50」と命名し、水田宗子理事長に寄贈されました。

水田理事長は「高麗祭の開催に伴って、私の名前を冠するバラをいただき大変うれしく思います。城西のバラとして世界で愛されるバラになっていくと思います。このバラ園とバラを愛していただきたい」と挨拶し、薬学協会に感謝状を贈呈しました。



植樹を行う水田理事長ら

産・官・学連携

「第2回V4(ヴィシェグラード)+Japan学生会議」開催 

2015年2月10日、本学が密接な学術交流を続けているV4諸国の大学の協力を得て、「第2回V4+Japan学生会議」を開催しました。

この会議は、V4諸国の若い研究者(主として大学院生)を招請し、本学(城西大学と城西国際大学)の学生・院生・留学生とテーマを設定して議論することにより、中欧地域と日本との友好関係をさらに発展させることを目的として、2014年にはじめられました。学生会議は通訳なしで、すべて英語を使用して行われるため、大学の国際化とそれに対応できる人材の育成に力を入れている本学の学生・院生にとって、中欧諸国を広く知る場であると同時に、英語教育の実践の場ともなっています。

本年は、V4諸国の本学の提携校である、マサリク大学(チェコ)、エトヴェシュ・ロラーンド大学(ハンガリー)、ワルシャワ経済大学(ポーランド)、コメニウス大学(スロバキア)から6人を招聘し、全体として、「グローバル化時代の多文化共生」というどの地域や国にとっても共通のテーマを掲げました。

その中で、第1セッションは国を超えた地域の発展にとっての多文化共生の重要性について、第2セッションは人の移動が容易な時代において、自国や自地域を離れて生きる人たちのことばや文化の問題について、第3セッションはマイノリティのアイデンティティの問題に焦点を当てて議論を行いました。

会議に参加した本学の学生・院生は、多文化社会の典型であるV4諸国の現状や問題点を聞き、議論することを通じて、今後いっそうの多文化社会の実現を目指す日本の現状や将来展望について、考えを深めることができたものと考えています。

昨年と同様に今年も、本会議開催に向けて、スロバキアの首都ブラティスラヴァに本部を置き、4カ国が共同で運営にあたり、V4地域内外の学術交流や環境問題の解決のための補助金を公募している国際ヴィシェグラード基金(IVF)の助成金の公募に申請し、V4諸国以外の案件で唯一採択されました。



活発な質疑応答がなされた



セッションで発表する学生

関連行事:「V4+日本 科学技術セミナー」開催 

2015年3月11日、紀尾井町キャンパスにおいて「V4+日本 科学技術セミナー」が開催されました。外務省から藺浦健太郎外務政務官ならびに、今年の幹事国であるスロバキアのコットマン大使、その他、V4各国から発表者が集まり、今年のテーマである「科学技術」を中心にセミナーが開催されました。

セミナーは地下ホールで開催され、日本政府をはじめ、V4各国の大使や25カ国の大使館の外交団、本学関係者、V4からの留学生を含む本学学生、有識者、本学のグローバル教育を支援していただいている企業の方々から約170名が参加しました。

冒頭で水田宗子理事長は「21世紀はグローバル教育の時代であり、本学も今回のようなセミナーやコンファレンスの開催を通じて、日本とV4の発展に寄与できるグローバル人材の育成に努めていきます」と挨拶、また3月11日ということもあり、藺浦政務官は、V4各国へ震災のときの援助のお礼も含めた挨拶をされました。

参加した学生らは、これまで以上にグローバルな視野を持つための大変貴重な機会を得て、皆熱心に各セッションの発表や討議を聞いていました。

なお、本学はV4の17の大学(ハンガリー9大学、ポーランド4大学、チェコ3大学、スロヴァキア1大学)と学術交流協定を締結して国際交流を展開しており、これらの大学から現在30名の留学生が城西大学および城西国際大学で学んでいます。



V4+日本 科学技術セミナーの会場で

産・官・学連携

ポストプロダクションセンターがオープン 

本学と映画会社の日活は、紀尾井町キャンパス内に「城西/日活ポストプロダクション(ポスプロ)センター」を設立、2014年6月30日にテープカット式が行われました。同センターは、プロ仕様のオンライン編集室、オフライン編集室などを有し、メディア学部の映像制作実習だけでなく、日活のプロのスタッフもこれらの設備を利用して映像作品を制作します。

テープカットの前に水田宗子理事長は「このセンターが世界に羽ばたく人材の育成の場となるように期待している」と挨拶しました。日活の佐藤直樹社長も「センター育ちの人間が世界の映画業界、放送業界で優れたクリエイターとして評価される日が必ず来ると信じている」と応えました。

「城西/日活ポストプロダクションセンター」は、最新機材を導入し、ドラマやCMなどあらゆる映像表現に対応する「プロ仕様のポストプロダクション施設」であると同時に、大学では初となる「大学施設内にプロの制作現場がある」環境を作り出すことにより、次世代の人材育成を目指します。



記者会見での水田理事長と日活株式会社 佐藤社長



日活ポスプロセンターオープンセレモニーでテープカットをする水田理事長と佐藤社長(右から3人目)ら

水田理事長へ日本商工会議所より表彰状 

2015年2月10日、V4 学生セミナー 祝賀会の機会を得て、水田宗子理事長が、日本商工会議所より表彰状を授与されました。

現在、日本には全国各地に514の商工会議所があり、会員総数は126万社を数えます。日本商工会議所は、それら全国の商工会議所を統合調整し、意見を代表する組織です。主な事業としては、各種の政策提言や中小企業の活力強化、地域経済の活性化等多岐にわたりますが、日商簿記検定などの検定試験による産業人材の育成支援も行っています。

城西国際大学が、第1回から10回連続して、全国簿記高等学校競技大会の実施並びに、日本企業が世界から早期に導入を求められている国際財務報告基準(IFRS: International Financial Reporting Standards)を研究し、毎年、先進的な発表を行うなど、簿記会計分野に置いて広く貢献したこと、加えて日商簿記検定の普及と発展に寄与してきたことが高く評価を受けました。その功績をたたえ、城西国際大学の創立から現在まで、卓越した先見性と一貫した教育理念をもって陣頭指揮をとって来られた水田理事長に感謝を込めて、表彰状を授与いただきました。



日本商工会議所より表彰される水田理事長



授賞式後の記念撮影

地域との交流・連携－紀尾井町キャンパス

「ハーバード大学 クロコディロス (KROKODILOES) コンサート」を開催 

2014年6月14日、城西国際大学国際教育センターと同メディア学部は、アメリカ・ハーバード大学の男性ア・カペラ・コーラスグループ「クロコディロス」のコンサートを開催しました。

ハーバード・クロコディロスは、米国で最も歴史があり、 prestageが高い男性ア・カペラ・コーラスグループであり、毎年厳しいオーディションを経て選ばれたハーバード大学の12人の学生で構成されています。音楽関係の学科を専攻する3人以外は、科学や物理、歴史など、音楽以外を専攻する学生となっています。



会場は大変盛り上がりしました

これまで、カーネギー・ホールなどでの公演のほか、大統領就任式などの公式行事や、各国の王族や著名人の前でも素晴らしいハーモニーを披露しています。音楽家のレナード・バーンスタインは「クロコディロスは、聴く人の心を温め、聴く人の一日を豊かにする」と絶賛し、クロコディロスのために作曲もしています。

当日は、「ダニー・ボーイ」や「イン・ザ・ムード」など懐かしいジャズやポップスの名曲が披露されました。

「テオトコス (Theotokos) 少年少女合唱団」クリスマスコンサート  

2014年12月2日、学校法人城西大学紀尾井町キャンパスのホールで、ルーマニアの「テオトコス (Theotokos) 少年少女合唱団」のクリスマスコンサートが開かれました。

同合唱団は、ルーマニアのトランシルバニア地方、アルバユリア市にあるマエリ・ルーマニア正教会所属の聖歌隊が主体となっており、11歳から18歳までの37人がメンバーです。ルーマニアの文化大使として今回、初来日しました。開催にあたっては、ルーマニア大使館、日本・ルーマニア協会の後援をいただきました。



挨拶するシェルバン大使

コンサートに先立ち、ラドゥ・シェルバン (Radu Serban) 駐日ルーマニア大使が「歌の中に彼らの信仰心が表現されています。これが天使の歌声を想像させます」と挨拶されました。合唱団はルーマニアのクリスマスキャロルや国際的なクリスマスソングのほか、「赤とんぼ」や「花は咲く」など約20曲を清らかなハーモニーで披露。森本雍憲・城西大学学長ら教職員、日本・ルーマニア協会の関係者、キャンパス近隣の方々、エクステンション受講者の皆さんなどホールを埋めた約160人から盛んな拍手を受けました。

薬学部医療栄養学科の学生が考案したローズクッキーを販売 

2014年11月2～4日に開催された高麗祭期間中、水田清子記念ローズガーデン内に設けられたローズガーデンカフェにて、ローズクッキーを提供しました。

ローズクッキーは、薬学部医療栄養学科の学生たちと江端みどり准教授がメニュー開発を行いました。そして、包装フィルムに貼られたシールのデザインは現代政策学部3年生の近藤郁美さんを中心とした柳澤助教のゼミの学生たちが作成しました。



ローズクッキー

ローズクッキーは、日高市のコラージュ日高本店 (株式会社シンデレラ彩果) さんに委託し、イチゴ味と狭山緑茶味の2種類をバラの花びらと葉に型取り、すべて手絞りで作っていただきました。来場者の皆さまに大変好評で、ローズガーデンカフェでのひと時を楽しんでいただくことができました。

地域との交流・連携－紀尾井町キャンパス

城西大学が箱根駅伝でシード権を奪還 

2015年1月2～3日に行われた第91回東京箱根間往復大学駅伝競走 (箱根駅伝) において、12年連続12回目の出場となった城西大学男子駅伝部は、2区・村山紘太主将 (経営4) の8人抜きの快走や、最終10区・寺田博英選手 (経営4) の区間賞の力走などで7位に入り、3年ぶりにシード権を奪還しました。

往路は8位、復路は7位で総合成績の11時間8分15秒は、88回大会の記録を2分2秒縮める城西大学歴代最高記録でした。

レース後の報告会は笑顔に包まれ、水田宗子理事長は挨拶で「毎年、多くの皆さまが応援してくださっている。そのことの連続の上に良い成績が出せる年があるのだと思っています。今年が城西大学の創立50周年。チームの活躍は私どもにとって大きな励みになりました。皆が心一つにして50周年を迎える良いきっかけをつくってくれたと思います」と男子駅伝部の健闘をたたえました。



区間賞を受賞した寺田選手 (10区) の力走

化石ギャラリー～夏休みワークショップ～開催  

2014年7月28日～8月3日と8月26日～31日、紀尾井町キャンパス3号棟で、千代田区教育委員会の後援のもと、小中学生を主な対象としたワークショップを行いました。

最初の期間は本学のある千代田区に在住または区内の小中学校に通っている未就学児～幼稚園小中学生を対象に、次の期間では制限を設けず未就学児～小中学生を対象としました。

ワークショップは3時間にも及び、「化石ギャラリークイズツアー」では、化石を通して、化石になった生物が食べていたものや餌の取り方、頭の良さまでわかってしまうことを、3択クイズ形式で学んでもらいました。正解すると、オリジナル絶滅生物スタンプを台紙に押せます。子どもたちは学芸員の解説に驚きの声をあげていました。



化石ギャラリーの様子

学生交流会が日枝神社の例大祭に参加  

2014年6月15日、「平成26年度日枝神社例大祭」に本学学生24名 (城西国際大学: 21名、城西大学3名) が平河二丁目町会の神輿の担ぎ手として参加しました。これは、紀尾井町キャンパスの学生活動活性化に取り組む「学生交流会: 学流会」による第1回目のプロジェクトとして計画され、平河町二丁目町会と事前打ち合わせを行い、実現しました。

当日、学生は、平河二丁目町会より借りた半天を身に着け参加し、大神輿を中心に担ぎました。また、背丈が合わず担げない女子学生もいましたが、子供神輿の補助や、「ワッショイ」の掛け声を積極的に行ったりと、祭りの盛り上げに大きく貢献しました。



女子学生も力いっぱい神輿を担いだ

「学流会」では、平河二丁目町会の神輿の担ぎ手として参加するに当たり、「安全第一」と「積極的な参加」そして「元気に挨拶をすることで地域交流を図る」ことを目的としています。この活動を通して参加した学生の成長と共に、平河町との交流の第一歩も踏み出すことができ、今後の発展にも期待できるプログラムとなりました。

地域との交流・連携－埼玉・坂戸地域の活性化

「高麗川プロジェクト」から発展 河川敷を憩いの遊歩道へ

高麗川の河川敷がきれいな遊歩道に生まれ変わります——。本学の「高麗川プロジェクト」をきっかけとして、埼玉県と坂戸市、日高市が手掛ける「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」の着手式典が2014年11月3日、高麗川横の本学ソフトボール場で開かれました。

今回整備されるのは、多和目橋から多和目天神橋までの約700メートル区間。現在は雑草が生い茂っている河川敷に遊歩道を整備、芝生広場、休憩所など憩いの場も設けられます。式典には森本雅憲学長や白幡晶副学長らが出席、石川清市長らと鍬入れをして、再生プロジェクトの成功を祈りました。

式典に先立ち、薬学部の「あんず組」とダンスサークル「SHOELACE(シューレース)」のメンバーたちがパフォーマンスを披露。また、県が結成した「かわガール」に登録されている「かわかどカヌー倶楽部」のメンバーの本学学生らがカヌーを操って式典に彩りを添えました。



「高麗川プロジェクト」着手式典で鍬入れする森本学長ら

高麗祭で留学生が多彩な文化展示

城西大学坂戸キャンパスでは、高麗祭期間中の2014年11月2日と3日にV4(ハンガリー、ポーランド、チェコ、スロバキア)、韓国、中国、マレーシアからの留学生たちがブースを出展し、国際色豊かなステージパフォーマンスと展示会が行われました。

会場となった17号棟1Fは手作りのポスターや、陳列された可愛い伝統工芸品に彩られ、訪れる人々の目を惹いていました。特に各国の民族衣装の試着や、マレーシアの草木染めの刺青体験は待ち時間ができるほどの人気でした。留学生による本場のダンスや歌のパフォーマンスでは、観客も参加し、一緒に歌い踊ることで大いに盛り上がりました。2日間で300名を超す方々が来場され、充実した国際交流となりました。



各国のダンスを披露

地域相互協力図書館合同公開講座を開催

水田記念図書館は、近隣の公共図書館6館(坂戸市、鶴ヶ島市、飯能市、日高市、越生町、毛呂山町)と相互協力提携を結び、さまざまな活動をしています。その事業の一つとして、2014年11月2日の高麗祭期間中に、本学図書館9階において平成26年度の地域相互協力図書館合同主催公開講座を開催しました。

6回目となった今回は「地域産業の現在：JAPANブランドによる今治タオルの復活」と題し、経営学部 辻智佐先生に講演をしていただきました。これに合わせ今治タオルと、今治市立図書館から拝借したタオル関連資料、今治市立立花中学校生作成パネル、写真パネルなどを展示、また地域相互協力図書館からは、「おらがまちのいいもの紹介」と題し、地場製品の展示・紹介をしていただきました。本学からは化粧品、ジャム、石鹸、休耕地活用プロジェクトの日本酒などを展示し、坂戸市との連携によるハナマンテンを使った担々麺については、企画した経済学部 末永啓一郎先生より説明をしていただきました。講演には、54名の方が参加し、会場で実際にそのタオルの感触を確認するなど興味深い内容となりました。



講座に参加した方々

地域との交流・連携－埼玉・坂戸地域の活性化

「エヴァ・ヴァリエ Fibers & Fragments Selected Works 1998-2014」開催

「エヴァ・ヴァリエ Fibers & Fragments Selected Works 1998-2014」のオープニングセレモニーが2015年2月17日に行われました。展示会に先立ちテープカットが行われ、水田理事長より、「水田美術館でエヴァ展を開催できることを嬉しく思います。作家の感性が溶け込んだ作品をぜひ堪能ください」とのご挨拶がありました。また、工芸作家エヴァ氏からは、「この美術館で展示会を行うことができ感謝しております。多くの皆さまに楽しんでいただきたいと思います」とお話がありました。



水田理事長、エヴァ氏、ご来賓の方々によるテープカット

展示会は、2015年3月14日まで開催され、日本の謡本を用いた作品を含め、1998年から2014年までに制作された作品が紹介されました。裂かれ撚られて線や断片となった繊維が、あらたな意味と形を持って立ち現れるエヴァ・ヴァリエ氏の作品世界に来場者は魅了されました。

「市民の健康づくりに関する連携協力協定」を締結

坂戸市内にある、女子栄養大学、城西大学、明海大学と坂戸市は、2006年度に「市民の健康づくりに関する連携協力協定」を締結しました。

これは、栄養学部のある女子栄養大学、薬学部のある城西大学、歯学部のある明海大学に、それぞれの専門分野の人材や知識を提供してもらい市民の方の健康増進に役立てようというものです。

2014年3月2日には、女子栄養大学において3大学による講演会が行われました。本学からは従二和彦薬学部長が出席し、「薬と上手に付き合う～あなたの身体を守る薬の活用法～」というタイトルで講演を行いました。聴講した市民の方々は、熱心に聞き入っていました。



講演する従二和彦薬学部長

「北坂戸にぎわいサロン 城西大学」がオープン!!

2014年5月17日、「北坂戸にぎわいサロン 城西大学」がオープンしました。「北坂戸にぎわいサロン」は、埼玉県エコタウンプロジェクトに選定された坂戸市の取り組みの1つで、自治体・大学・地元自治会が協働して、太陽光発電の売電収益をまちづくりに活用しているという事業です。

城西大学は、「北坂戸にぎわいサロン」をラーニングcommons、すなわち学生と地域住民と一緒に学びあいながら、にぎわいを創造するためのスペースと位置づけています。大学の授業やゼミ、クラブ・サークル活動、イベントはもちろんですが、地域の方々が日常的に利用する場として運営していきたいと思っています。



にぎわいサロンの入り口

地域との交流・連携－埼玉・坂戸地域の活性化

「まちづくり」の授業で清掃作業を実施

2014年6月18日、城西大学経営学部では、坂戸市と毛呂山町のご協力をいただき、清掃作業を行いました。「川角駅と城西大学間の沿道」、「明海大学裏の駐車場」、「高麗川周辺」の3つのルートに分かれて、約1時間の清掃作業を行いました。

「まちづくり」の授業は、フィールドスタディー（学外での研修）に重点を置いていることが特徴です。まちづくりの理論を学ぶだけでなく、まちづくりを身をもって体験し、将来のキャリア形成に繋げることを目標にしています。

この日は木下たかし埼玉県議会議員にも駆けつけていただき、「この清掃作業を通じて高麗川をふるさとの川として誇りに思い、この地域に世代を超えて伝わる自然環境の再生活動やエコ活動への関心を高め、地域の活性化につなげて欲しい」とのエールをいただきました。

またこれまでも城西大学では、人間教育、国際教育、地域連携を推進する「高麗川プロジェクト」を実施しております。

今後も、地域の自然環境の再生活動やエコ活動への関心を高め、地域の活性化に寄与できるようこれらの活動を継続していきます。



3つの班に分かれて清掃を行った



クリーンなまちづくりを目指す

理学部化学科の授業を一般公開

理学部化学科では、講演方式の授業「生活と化学物質I(4月～7月)」と「生活と化学物質II(9月～1月)」を、毎週土曜日3時間目(13時30分～15時00分)に開講しました。化学科の教員が、社会にあるいろいろなことを化学の目で見て考え、解説します。授業は各時間独立した内容ですので1回だけでも無理なく受けられます。また、この授業は、公開授業で高校生にも開放されています。

一般の人たちが見ると同じに見える物が、化学を学ぶと全く別なものに見えてきたり、逆に全く別と思える物が同じ分類だったりします。物事を化学の目で見ると世の中がどう見えるかという授業を展開していきます。

(全プログラム)

第1回「はじめに」講師 山本 達夫

第2回「脳に作用する化学物質I」講師 寺前 裕之

第3回「脳に作用する化学物質II」講師 寺前 裕之

第4回「チョコレートについてのちょっとしたサイエンス」

講師 宮前 博

第5回「磁石の話」講師 宮前 博

第6回「エアロゾル－大気中の微粒子－(1)」講師 尾崎 裕

第7回「自然界から見出された化学物質の構造とその応用」

講師 若林 英嗣

第8回「生体分子とサプリメント(1)」講師 北川 浩子

第9回「生体分子とサプリメント(2)」講師 北川 浩子

第10回「エアロゾル－大気中の微粒子－(2)」

講師 尾崎 裕

第11回「魚の体色・模様はどのように決まる？」

講師 佐野 香織

第12回「化学物質と環境科学」講師 紺野東一

第13回「都市鉱山」講師 紺野 東一

第14回「暮らしの中の同位体」講師 堀合 公威

第15回「暮らしの中の電磁波利用」講師 堀合 公威



「生活と化学物質」の公開授業

地域との交流・連携－埼玉・坂戸地域の活性化

日高市栗料理レシピコンテストで入賞

埼玉県日高市にある日高市生涯学習センターで行われた「第1回日高市栗料理レシピコンテスト」にて、本学医療栄養学科卒業生で、現在同学科助手の中里見真紀(代表)、岩田直洋と同学科助教の菊地秀与によるグループが入賞しました。

このコンテストは、日高市の特産品である栗の消費拡大を通じた農業の振興や日高市の知名度向上を図るために行われ、今回応募総数127件の中から書類審査を通過した7作品が、2014年10月11日に開催された試食審査会に挑みました。

日高市の栗は粒が大きく形も食味もいいのが特徴で、今回入賞した「毬(イガ)いな肉団子とピッ栗シューマイで日高市三昧」には、その日高市産の高麗川マロンを贅沢に3つ使用し、栗の粒の大きさを生かし1つは栗を丸ごと肉団子の中に入れ、その周りをそうめんを覆い、油で揚げることによって栗の毬を表現しました。

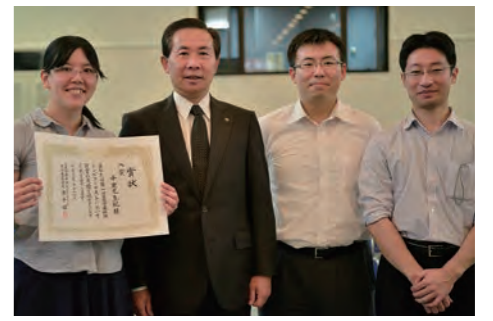
また、2種類のシューマイにも半分にした栗をあしらい、さらに角切りの栗も入れることで、どこから食べても栗を味わえる工夫をしました。皮には日高市特産のブルーベリーやお茶を練り込み、見た目にも鮮やかな紫や緑色を出し、豚肉にはサイボクハムのゴールデンポークを使用し、日高市三昧を表現しました。

ジューシーな肉の旨味と、栗のホクホクがマッチし、さらにボリュームも満天! とても満足できる1品です。

今回入賞した作品は、来年度の栗の販売を促進するためにレシピカードとなって、地元をはじめ全国の消費者の方々に配布されることになっています。



「毬(イガ)いな肉団子とピッ栗シューマイで日高市三昧」



今回参加したメンバーと日高市長との記念撮影

箭弓稲荷神社 創作稲荷寿司コンペティションにて優秀賞獲得!

東松山にある箭弓稲荷神社で行われた「創作稲荷コンテスト」にて、本学医療栄養学専攻の修士2年の谷内友梨さん(食品機能学講座 真野教授)が優秀賞を受賞しました。また医療栄養学科2年生の武真利子さんの作品「巾着三色稲荷寿司」も見事入選を果たしました。

このコンテストは、県内屈指の古社である箭弓稲荷神社で、稲荷大社に因んだ稲荷寿司が昔からあったこと、一昨年に御鎮座1300年を迎え、社殿を今年新たにすることを機に、独創的で人々に元気を与える新しい稲荷寿司の提案ということテーマに掲げたものです。

谷内さんの作品「開運△いなり天」は、東松山の名物「やきとり」に継ぐ名物となるよう、三角形の稲荷寿司を天ぷらにし、おみくじを付けた串に刺した創作稲荷寿司です。刻んだ甘酢ショウガと胡麻をまぜた酢飯で三角形の稲荷寿司を作り、そのまま天ぷらにしました。外はサクサク、冷めてももちりとしていて中はジューシーな一品です。

コンテスト上位作品は商品化も検討されるかもしれないとのこと、今後の展開が楽しみです。



谷内さんの作品「開運△いなり天」

地域との交流・連携－千葉・東金・鴨川地域の活性化

第8回さくら祭り&ウォーキング in 嶺岡中央林道 

2014年4月6日、本学創立者水田三喜男先生の生家及び周辺にて、「第8回さくら祭り&ウォーキング in 嶺岡中央林道」を開催しました。

観光学部では2006年4月に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げて以来、嶺岡中央林道に桜の植栽を続けています。

平成22年からは社団法人霞会館より毎年50本の桜苗木を寄贈していただいております。今回も贈っていただいた「ソメイヨシノ」を植樹しました。

さくら祭りでは、テーマソング「サクラホーム」の合唱、地元曾呂小学校の獅子舞、ハンガリー学生によるハンガリー舞踊などを披露し、地域の皆さま方と楽しいひとときを過ごすことができました。



水田桜の植樹

鴨川市嶺岡林道に富安風生先生の句碑を建立 

学校法人城西大学創立50周年を記念し、創立者水田三喜男先生、ならびに故水田清子名誉理事長の師であり、高名な俳人であった富安風生先生の句碑を創立者生家からほど近い、鴨川市の嶺岡林道に建立しました。碑には「白鳥来 おのづからなる位もて」と刻まれています。

この句は名誉理事長が、第一句集『白鳥』の句集を出版された折に、序句として富安先生からお祝いに贈られたものです。

2014年6月9日に行われた除幕式には、富安先生のご息女・遠藤文子様、富安先生主宰の「俳誌／若葉社」相談役・酒井土子様、長谷川鴨川市長、JIU俳句会、鴨川若葉俳句会、鴨川市民の方々、中国姉妹校の先生方を含む多くの方々にご参加いただき、盛大に行われました。

この嶺岡林道にある句碑の道は、美しい桜並木に加えて、自然と文化を楽しんでいただける場所です。ぜひ新しい観光名所として、たくさんの方々を訪れてくださることを願っています。



句碑の除幕



遠藤文子氏(富安風生先生ご息女)より感謝のスピーチ

福島へ菜の花を贈りました 

東日本大震災後の約1年間、鴨川市で避難生活を過ごされた福島県内の知的障害者施設の方々に菜の花を送り届けるために、2015年1月26日、菜の花の収穫作業を行いました。

作業を呼びかけたのは鴨川市内のボランティア団体の「ウミガメ倶楽部」など3団体で、地域のボランティア活動にも力を入れる本学部軟式野球部もこのプロジェクトに賛同し、一緒に菜の花を集め梱包作業を手伝いました。この活動は2年前から行なわれており、寒さ厳しい東北で南房総の菜の花を見て元気になってもらいたいと願って作業にあたりました。



菜の花の収穫をする

地域との交流・連携－千葉・東金・鴨川地域の活性化

第9回ウェルネス交流DAYを開催 

2014年10月18日、快晴の空のもと、今年も地域の方々にご賛同いただき、「第9回観光学部ウェルネス交流DAY」を開催いたしました。

メインステージでは、欧州からの留学生による民族音楽の演奏や民族舞踊に加え、本学東金吹奏楽団、安房拓心高校吹奏楽部の演奏が賑やかに行なわれ、中国人留学生によるカンフーの演武、ダンスサークルの演技、また、中国、ベトナム、チェコ、ハンガリーからの留学生による母国の紹介も行われました。

今回は、学生実行委員が中心となって企画し、準備から運営、実施を通して、個人個人、大きく成長したと思います。このような経験を、今後の大学生活、社会人になってからも活かしていきたいです。

来場された方々には、「世界と繋がる笑顔の輪～Make the world smile～」という今回のテーマに沿った国際色豊かなキャンパスの雰囲気を楽しんでいただけたと思います。

来年度は観光学部設立10周年を迎えます。今回以上に盛り上がるウェルネス交流DAYをぜひご期待ください。



ウェルネス交流DAYの様子

みのりの郷東金にて留学生による餃子飯店を開店 

2014年5月の連休の3日間(4日～6日)限定で、中国からの留学生13名が2チーム編成で「みのりの郷東金」に「餃子飯店」を開店しました。みのりの郷東金は4月6日に、大学から1キロメートルほど南の地にオープンした地域の産品・加工品販売の拠点となるセンターです。オープン後初めての連休ということで直々のお話をいただき、13名の精鋭たちが取り組んだイベントでした。

3日から準備にかかり、スペースや施設も限られた中で、本格的な水餃子づくりに取り組みました。小さい時から手づくりで作っている彼らですが、1日200個を作るには大変なエネルギーと時間がかかります。皮から丁寧に作り、中身を細かく刻むのに2時間以上かかりました。できあがった餃子は冷凍庫に入れて安全にも気を使いました。

予定通りの売上げとはいきませんでした。初日から150個以上を販売し、地元の方たちからは「おいしい!」「手づくり?」と声をかけられ、交流できたことを留学生たちは一番の成果だと感じたようです。



準備に大わらわ

留学生も参加して田植えを实践 

環境社会学部では、食農教育の一環として小規模な農業に取り組むことで、これからの農業のあり方を学び、周辺の自然環境の保全を図りながら新たな付加価値を創造する6次産業化の方向性や地域活性化への貢献などについて多角的に実践する「小さな農プロジェクト」を推進しています。

2014年5月24日、千葉東金キャンパス近くのJIU農園において田植えを実施しました。おだやかな天候のもと、学部学生と海外からの留学生が一緒になって、稲苗の手植えを行いました。

稲作を始めて5年目となる今回は、4月に学生自ら蒔いた黒米とコシヒカリの籾から成長した長さ15cm程度の苗を植え付けました。植え付けた苗は、梅雨の水の恵みと夏の日差しを受けて、ぐんぐんと成長しました。その後も水や雑草の管理を続け、9月には稲刈りを実施しました。



真剣に苗を植える留学生

地域との交流・連携－千葉・東金・鴨川地域の活性化

今年もチーバくん大使に任命 

2014年6月6日、千葉県庁にて、県の外国人観光客の増加を図るための「チーバくんと共に千葉県の魅力を海外に向けて発信する大使（略称：チーバくん大使）」任命式が行われました。多数の応募者の中から、本学からは観光学部4年生の郭驊菡さん（台湾出身）とグローバルコミュニケーション専攻1年生の楊萌萌さん（中国出身）が「チーバくん大使」として任命され、任命状が授与されました。

チーバくん大使の主な活動目的は、千葉県の魅力を母国語で発信し、インバウンド観光の需要を喚起することで地域の活性化を図ることです。

観光学部の留学生からの選出は、3年連続となり、郭さんと楊さんにもこうした一連の活動を通して、地域活性化の役割を担うことが期待されています。



チーバくん大使に任命された方々とともに

「みのりの郷」のクリスマスパーティに留学生が参加 

2014年12月13日、国際化社会の形成に寄与することを目的に周辺地域在住の方々と国際交流を推進している「東金国際交流協会」と、ロータリー米山奨学会の「東金ロータリークラブ」の主催により、千葉県東金市にある「みのりの郷」にて、クリスマスパーティが実施されました。本学からは、スロバキア・ポーランド・フィリピン・韓国・中国から留学に来ている計12名が参加しました。

本学の留学生たちは東金市民の皆さんと触れ合ったり、地元の高校生たちと交流をしました。また、韓国人留学生による歌の披露や太鼓の演奏、伝統的な踊りなどが行われ、参加した皆さんが真剣なまなざしで、他国の文化に触れていました。他国の食事も振る舞われ、留学生たちは東金市民の皆さんや地元の高校生たちに一生懸命日本語で説明をしていました。

本学手話クラブの学生達も参加し、手話パフォーマンスをしました。東金市民の皆さんや留学生たちにとってはあまり見る機会がないため、興味深そうに楽しんでいました。



韓国の留学生が民謡を披露



終了後の記念撮影

硬式野球部が少年野球教室を開催 

2014年7月26日、城西国際大学硬式野球部、浅井病院野球部、そして東金商工会議所の三者共催による「東金市少年野球大会」が水田記念球場にて開催されました。

6回目となるこの教室は、今回5チーム約40名の球児が参加するなど、毎回多くの近隣少年野球チームが参加しています。

当日は30度を超える暑さにも負けることなく、大学生による熱のこもったきめ細かい指導に球児たちも力一杯応えていました。

今後も本学は、このような活動を地域自治体と積極的に連携促進し、地域のスポーツ振興にも寄与して参ります。



本学硬式野球部による子どもたちへの指導

地域との交流・連携－千葉・東金・鴨川地域の活性化

能楽囃子講座を開催 

2015年2月13日、東金キャンパス水田記念図書館プレゼンテーションホールにおいて、大倉源次郎氏（大倉流小鼓方十六世宗家）を講師にお招きし、「能楽囃子講座」が行われました（国際人文学部国際文化学科・日本研究センター共催）。大倉氏は演奏活動の傍ら、能楽の囃子の普及に努めておられ、その活動は国内外のきわめて広範囲に及び、日本の音文化の担い手の代表格です。

当日は、^{おおつみ}太鼓、能管の演者ととともに、講演と演奏、及び演奏体験指導を2時間にわたって展開されました。学生・社会人半々の約百名が参加し、盛会となりましたが、なかでも能楽を研究しているポーランドからの留学生は「二度とない経験でした」と感激の面持ちでした。



能楽囃子講座の様子

日本一の鏡餅に挑戦 餅つき大会に参加 

2014年12月23日の祝日、九十九里町の九十九里町産業経済振興会議が中心となり行われた「第10回日本一の鏡餅に挑戦」大餅つき大会に、男女柔道部25名が参加しました。今回で5回目の参加となった柔道部員は、近隣住民の皆様や地域の子供たちと親睦を深めながら、早朝から夕方まで約1日をかけて59俵、約4トンの餅をつき上げました。

この模様は地元メディアにも取り上げられ、男子主将の藤原君（経営情報3年）は、「柔道部は地域の皆さまから多くの応援をいただいで活動しています。今回の餅つきに参加することで、地元住民の方々と交流を深め、地域に少しでも恩返しできればと思っています」とインタビューに答えていました。柔道部では、今後も地域貢献の一環として地元のイベントやボランティア活動に積極的に参加していく予定です。



気合を入れて杵を振り下ろす男女柔道部

日吉神社連合祭典に約50名の学生が参加 

2014年7月26日、27日、二年に一度開催される大祭、「日吉神社連合祭典」に本学学生約50名が引き手、担ぎ手として参加しました。

この連合祭典は祭暦351年の歴史ある祭りで、千葉県東金市の九区（大豆谷区、臺方区、上宿区、谷区、岩崎区、新宿区、堀上区、川場区、押堀区）の山車・屋形と日吉神社の神輿が東金市内を連なり練り歩く勇壮な山車祭りです。

2日間とも暑い日となり、山車や屋形の運行は大変でしたが、参加した学生たちは地域の皆さまとの交流を深めることができ、充実した時間を過ごすことができました。

今後も地域貢献活動の一環として、地域の皆さまと共に例大祭を盛り上げていきたいと思います。



山車屋台の前で

地域との交流・連携－千葉・東金・鴨川地域の活性化

中国人、韓国人留学生在柏井高校の生徒と交流 

2014年6月26日、7月3日の2回にわたり、国際文化学科の留学生在が柏井高等学校(千葉市)と国際交流講座を行いました。柏井高校では昨年度から国際コミュニケーションコースを開設し、2年次・3年次に第2外国語として中国語か韓国語を選択するカリキュラムを組んでいます。

講座は、1年生9クラスの学生を対象に、中国、韓国の文化や言語を留学生から学び、次年度以降のアジア文化学習への関心を高めることが目的です。

高校到着後、留学生たちは各クラスに一人ずつ入り、事前に準備した教材を中心に高校生たちと楽しく交流しました。韓国の若者の関心事や、簡単な中国語、韓国語会話、ゲームなど大いに生徒たちの興味をひきました。

質疑応答の時間には、高校生から様々な質問が投げかけられ、あっという間に予定の時間が過ぎてしまいました。近年様々な問題を抱えている日中韓において、若い世代の交流は、とても有意義な時間になりました。



学生による韓国語講座

留学生在が千葉県立成田国際高等学校で秋季セミナー(交流会)に参加 

2014年10月24日、城西国際大学留学生28名が千葉県立成田国際高等学校において、国際理解を目的とした秋季セミナー(交流会)に参加しました。

今回は、欧州地区から多数受け入れている留学生在が中心となり、ノルウェー12名、ポーランド3名、ハンガリー3名、スロバキア2名、スペイン2名、カナダ2名、アメリカ2名、中国2名が参加し、異文化理解を深める交流機会となりました。

到着時より普通科1年生の皆さんから熱烈的な歓迎を受け、全体会での留学生在自己紹介につづき、グループに分かれての交流会が行われました。

日本文化や留学生在出身国の文化・言語の紹介など、グループごとに事前に用意された企画のもと、和やかな雰囲気で行われました。



成田国際高校の生徒たちと

クリーンキャンパスプロジェクト活動報告 

クリーンキャンパスプロジェクトでは、2008年の夏期職員研修による結成以来、「10年先、20年先も過ごしやすいキャンパスを！」をスローガンに、大学周辺の清掃活動や花壇の整備、敷地内や大学宿舎のプランター花作り等、学内外の清掃・美化活動を継続的に実施しています。

中でも年2回(6・10月)実施される求名駅前区一斉清掃への参加は今回で7回目を迎え、課外活動団体・教職員を中心に毎回50～100名程が参加、地域との恒例行事(交流行事)となっています。

今後も活動を通じて、顔が見える、地域に根差した、愛される大学を目指して参りたいと思いますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



清掃作業の様子

地域との交流・連携－千葉・東金・鴨川地域の活性化

棚田の夜祭りにボランティアスタッフとして参加 

観光学部の学生たちは、日本の棚田百選選定「大山千枚田」を幻想的にライトアップする棚田の夜祭りにボランティアとして参加しました。1万個のLEDライトと炎が織りなす光によって、大山千枚田の幻想的な風景は、毎年多くの観光客を魅了しています。今回も千人以上の観光客がこの幻想的な風景を堪能しました。

また、大山千枚田の夜祭りの今後のあり方を検討するため、日本人学生と留学生在がアンケート調査を行いました。実際に学生が行ったアンケート調査から、ツアー旅行で訪れる観光客が多いなどの気づきがありました。棚田という自然資源を幻想的な光によって新たな観光資源とする意味や仕組みを知ることは市民参画型のツーリズムを体験する上で非常に勉強になったことと思います。

学生たちは、授業の一貫として地元の観光イベントに積極的に参加し、地域の観光の取り組みについて体感的に学んでいます。今後もその取り組みを続けていくつもりです。



ボランティアスタッフとして働く学生

あさひ砂の彫刻美術展2014に参加 

2014年7月19日～8月7日までの20日間にわたり、千葉県旭市の矢指ヶ浦海岸で「あさひ砂の彫刻美術展2014」が開催されました。環境社会学部の学生有志がこのイベントにボランティアとして参加しました。

今回は13名の学生(うち留学生在3名、社会人学生2名)が、7月19日に行われた子どもたち向けの砂像制作体験イベント用の準備と運営協力、売店での販売、チラシの配布などを担当しました。

土台づくりは、底をくりぬいた大型ポリバケツにスコップで砂を入れながら水を加え、直径60cm、高さ77cmの砂の円柱を約80基制作しました。参加した学生たちは、その土台を使っての子供たちの制作体験を終日サポートし、本イベントの運営協力で汗を流しました。

本学部では、このように地域と連携し、地域の活性化等に貢献するため、学外でのプロジェクトやフィールド教育を重視した実践的な教育に力を注いでいます。



子どもたちと一緒に土台づくりに精を出す学生たち

白浜海女祭りにボランティアスタッフとして参加 

2014年7月20日、50回目の開催となる「南房総市白浜海女まつり」にボランティアスタッフとして参加しました。

今年度は南房総市が企画した各国大使館のモニターツアーのサポーターや、各種会場のスタッフとして活動しました。また昨年度に引き続き、観光学部ダンスサークル「TancoS(タンコッシュ)」がステージにてダンスを披露して会場を盛り上げました。

学生たちは、ボランティアスタッフとして活動するにあたり、白浜海女まつり実行委員会の会議に参加し、地域の文化資源の活用や観光イベントにおける集客方法、そしてまた運営方法などについて体感的に学ぶことができ、今後社会生活を送るうえで、大いに勉強になったようです。



大使館モニターツアーの皆さまをお出迎え

中欧・北欧との国際交流の進展

中欧研究所新任派遣研究員紹介

わが国初の当該地域に関する研究機関として2014年に設立された城西・中欧研究所に、このほど、私たちの活動をさらに強化する二人の教員がハンガリーから来日しましたので、紹介いたします。

2013年11月にハンガリーのオルバーン首相が来学された際、本学とハンガリーとの友好関係の促進のため、二人の教員の派遣を約束、日本の大学には初めての教員派遣です。ハンガリー人材省の派遣により、本研究所が受け入れ機関となります。10月から半年間、研究と学部・大学院の教育・研究に取り組みます。

プレプク・アニコ (PREPUK Aniko) 先生は、ハンガリー東部、第二の都市デブレツェンにあるデブレツェン大学人文学部の准教授で、専攻は歴史学です。すでに、著書の日本語訳『ロシア・中東欧ユダヤ民族史』(彩流社、2004年)があり、中東欧地域のユダヤ史の専門家です。最近の関心は、ハンガリーにおける第二次世界大戦期のホロコーストの問題。

シュミット・アンドレア (SCHMIDT Andrea) 先生は、ハンガリー南西部の都市ペーチにあるハンガリー最古のペーチ大学人文学部の助教で、専攻は国際関係論です。V4諸国(チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア)関係の専門家で、V4諸国の大学院文学修士レベルの共通プログラム作成のために奔走しています。国際化を進める本学にとって、大学間協力の実務の貴重な話も聞けるものと思われま

す。国際化を進める本学にとって、大学間協力の実務の貴重な話も聞けるものと思われま

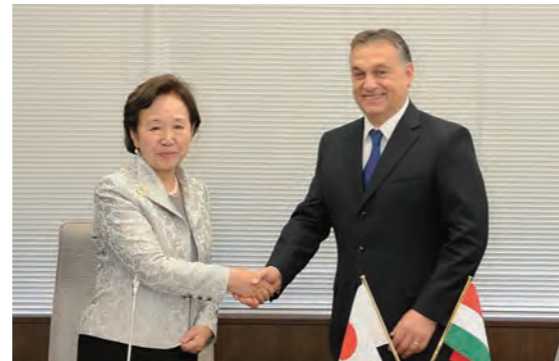
す。国際化を進める本学にとって、大学間協力の実務の貴重な話も聞けるものと思われま

す。国際化を進める本学にとって、大学間協力の実務の貴重な話も聞けるものと思われま

ポーランド外務副大臣が来学し講演

2014年4月14日、ポーランドのノヴァック・ファル外務副大臣が紀尾井町キャンパスに来学され、講演を行いました。講演に先立ち、水田宗子理事長は、「ノヴァック・ファル外務副大臣にご講演いただけることを大変うれしく光栄に存じます。多くの日本人が精通していないEU法についてお話していただくことは、学生にとってすばらしい機会となるでしょう」と挨拶しました。

「Japanese journey into the EU Law」と題した講演では、EU法の概要をはじめ、法律制度について多角的な見解をもって説明されました。質疑応答では、「EU法による地元の人々への影響は？」などの質問があり、活発な議論が行われました。



2013年11月21日、オルバーン首相が来学



プレプク・アニコ
(Dr. PrepuK Aniko)
ハンガリー、デブレツェン出身(1963年生)
1997年 コシュート・ラヨシュ大学史学博士号取得
2003年より、デブレツェン大学人文学部准教授



シュミット・アンドレア
(Dr. Gal, Zoltanne Schmidt Andrea)
ハンガリー、ペーチ出身(1969年生)
1998年 ペーチ大学人文学部研究科博士号取得
2003年より、同大学人文学部助教



ノヴァック・ファル外務副大臣

中欧・北欧との国際交流の進展

チェコのヤン・ムラーデク産業貿易省大臣が講演

2014年11月13日、チェコ共和国のヤン・ムラーデク産業貿易省大臣が紀尾井町キャンパスを訪問し、講演会と交流会が行われました。

ムラーデク大臣は、プラハ経済大学で経済学を、カレル大学では数学を学ばれ、チェコ応用経済学研究所所長、チェコ財務省第一副大臣やチェコ農業省大臣などを歴任され、今年からはチェコ産業貿易省の大臣を務められています。

本学では、グローバル人材の育成に向けた国際交流活動を掲げて世界のさまざまな大学と国際交流を進めておりますが、特にハンガリー、ポーランド、チェコ、スロバキアのヴィシエグラード4カ国(V4)を構成する中欧諸国の大学に関して、学生交流および人材育成に積極的に取り組んできました。こうした取り組みを一層進めるため、2014年11月には法人本部に中欧研究所を設立しました。

城西国際大学ではチェコのプラハ経済大学やカレル大学、マサリク大学の3大学と学術交流協定を締結し、一昨年から留学生を受け入れています。こうした流れの中、今回のムラーデク大臣の来学訪問が実現しました。

ムラーデク大臣からは、「学生の皆さんに向けて講演できて嬉しい」との挨拶があり、その後チェコからの3人の留学生に加え、2014年に城西大学の職員となった元留学生の計4人が歓迎の挨拶をしました。



関係者による記念撮影



講演するヤン・ムラーデク大臣

スロベニア共和国前大統領が来学し講演

2014年4月23日、スロベニア共和国のダニロ・テュルク前大統領が紀尾井町キャンパスを訪問され、講演と学生たちとの交流が行われました。ダニロ・テュルク前大統領は、リュブリアナ大学で法律を学ばれ、同大学の国際法・国際関係研究所所長を1992年まで務められました。同年から2000年まで8年間スロベニアの国連大使、2000年～2005年にかけては政治安全保障担当の国連事務次長補として国連で活躍された後、2007年にはスロベニア共和国第3代大統領に選出され、2012年にその任を終えられました。

ダニロ・テュルク前大統領は「国連の未来(The Future of The UN System)」と題した講演で、上級外交官および国連高官としての経験を踏まえ、国連のシステムの概要から安全保障、開発、人権の3つの分野について話をされ、欧州の留学生や両学の学生たちは熱心に耳を傾けました。また、学生からの質問にも丁寧に答えられました。



学生たちとの交流



講演するダニロ・テュルク前大統領

アジア地域との国際交流の進展

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めております。ここではアジア諸国との主な交流についてご紹介いたします。

ベトナムの大学との交流

2015年1月25日、学校法人城西大学一行は4つの大学との学術交流協定締結と高校生ら若い世代に日本、本学の魅力を紹介し、「日本に学ぶ」意義について説明することを目的とし、ベトナムに向かいました。Ho Chi Minh City University of Transport (ホーチミン市交通大学)、Ho Chi Minh City University of Technology and Education (ホーチミン市技術教育大学)、Ho Chi Minh City University of Technology (HUTECH・ホーチミン市工業大学)、Foreign Trade University (外国貿易大学)を訪見し、それぞれの学長との間で学術交流・交換留学について協定書を交わしました。

大学訪問の合い間に現地の高校や日本語学校、新聞社を訪見しました。ホーチミン市では、Ngoi Sao高校、Le Quy Don高校のほか Dongdu Japanese Language School (東遊日本語学校)を訪見。また、ハノイでは、Viet Duc高校、Gin Binh第一高校、Luong Tai 第一高校、Ky Thuat Viat Tri 高校など6校と日本語学校のAkira Language Education、タンロン技術学院にも出向きました。いくつかの高校では、約500人の生徒が集まり、城西一行の説明を熱心に聞いていました。



ホーチミン交通大学で調印式



Gia Binh第一高校 先生方の説明

高円宮妃殿下へ韓国韓南大学校より名誉博士号贈呈

2014年4月3日、韓国にある本学姉妹校である韓南大学校より、高円宮妃殿下に名誉博士号(教育学)が高円宮邸にて授与されました。

高円宮殿下とともに妃殿下が、長年心をこめて、日本と韓国両国の友好の推進に努めてこられ、スポーツ、教育、若い人の人材育成に長年お力を尽くされたご貢献が、この名誉教育学博士号授与となったものです。

Prince Takamdo Memorial Sports Parkに高円宮殿下のご功績を顕彰させていただくためお名前をいただき、第一回国際交流試合には妃殿下ご臨席のもとで開催いたしました。このように妃殿下と韓南大学校とのご縁を取り持ちました本学としても大変うれしく存じております。

本学としてお祝いの午餐会を開催し、韓国大使館より政務公使の金元辰、高明暖ご夫妻にもおいでいただきました。また、日本経済団体連合会会長の米倉弘昌会長、国際交流基金の安藤裕康理事長、高円宮記念日韓交流基金の活動にて、妃殿下とともに積極的に両国の交流の推進、特に草の根運動を大切にされた地道な活動を支援しておられる日本と太平洋セメント、サムソン、アサヒグループホールディングス、LG、CJJapanなど韓国の経済界を代表する皆さま方にも、お集まりいただき、お祝いいたしました。

和やかな雰囲気の中、日韓両国の交流、両校の交流の進展がみられた意義深い会となり、両校の絆も大変深まったよい機会でした。今後もさらに交流をはかってまいります。



関係者による記念撮影

キム・ウオンジン コウ・ミョンウオン

アジア地域との国際交流の進展

Management and Science University (MSU) より水田理事長へ名誉博士号の授与、城西大学でのマハティール氏講演の実現へ

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行8名は、2015年1月23日より31日の日程で、マレーシアとベトナムを訪見しました。

24日、姉妹校のManagement and Science University (MSU、マレーシア)では、水田理事長の長年の研究業績や女性の地位向上に対する取り組みが評価され、同大学の理事長ハジャ・ハミナ王妃陛下から名誉博士号が授与されました。

25日、水田理事長らは、22年間にわたり首相をつとめられたマハティール・ビン・モハマド氏の自宅を表敬訪問しました。同氏は首相時代に、ASEANのリーダーとして地域の活性化に活躍、「ルックイースト政策」を推し進め、マレーシアの国力を飛躍的に増大させた方です。

本学は、今年の50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などをお招きし、グローバル人材養成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを4月からスタートさせます。水田理事長は、マハティール氏にその出席を依頼し、講演をお引き受けいただきました。



王妃より名誉博士号を授与される水田理事長



マハティール・ビン・モハマド氏宅で

埼玉発ハラール化粧品 マレーシアMSUとの取り組み

城西大学薬学部が参画している埼玉県ハラール化粧品事業の第2回研修会が、2014年11月19日にさいたま市の大宮ソニックシティにて開催されました。

マレーシアハラールのグローバル展開の中心を担っているマレーシア財務省所有のハラール産業開発公社 (Halal Industry Development Corporation) の方だけでなく、本学の姉妹校であるマレーシアのManagement & Science University (MSU) のTan Sri Dato's Wira Dr. Mohd Shukuri Ab Yajid学長が講演されました。

ハラールとは、アラビア語で「許されたもの」という意味で、イスラム教の戒律にそって処理された商品のことを指します。イスラム教徒を対象としたその市場は2030年には1,000兆円規模に膨らむと考えられています。本学の薬学部では埼玉県と共に県内の化粧品製造業者のハラール市場への参入を支援します。

MSU薬学部と本学薬学部薬科学科では、セメスター(半年)留学を昨年度よりスタートさせ、本年度は、本学より10名の学生がMSUにて、また、MSUより12名の学生が本学にて薬学専門科目をすべて英語で学んでいます。また、今回の両大学の契約で、城西大学とMSUでそれぞれ2年間ずつ学び、両大学から同時に大学卒の学位(BS)を取得することができるダブルディグリープログラムも始めます。薬学領域でのこのようなプログラムは日本で、またマレーシアでも初めての試みです。



Tan Sri Dato's Wira Dr. Mohd Shukuri Ab Yajid学長

広がる国際交流

チカダ賞受賞記念国際シンポジウム開催 ～生命の尊厳を表現すること～



ラーシュ・ヴァリエ大使によるチカダ賞の説明

今回の受賞を契機に、俳人でもあるスウェーデンのラーシュ・ヴァリエ大使、過去のチカダ賞受賞者や東アジアの著名な詩人の皆さまにお集まりいただき、「生命の尊厳を表現すること」をテーマに、3つのセッションからなるシンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、ヴァリエ大使閣下からチカダ賞についての説明、ハリー・マッティンソンの詩集『アニアール』についての水田理事長からの話につき、ディスカッションが行われました。

3部のパネルのテーマは、「1.北欧の詩人と東アジアの詩人との出会いとしてのチカダ」、「2.外地経験と詩・表現」、「3.東アジアの詩の未来について」でした。

パネル1では、ヴァリエ大使、過去の受賞者の申庚林氏(韓国)、文貞姫氏(韓国)、有馬朗人氏(日本)、韓成禮氏(韓国)らが参加し、「北欧の詩人と東アジアの詩人との出会いとしてのチカダ」などについて語り合いました。

パネル2では、中国から北島氏をお招きし、詩人の高橋睦朗氏、財部鳥子氏、田原氏(中国)らにより、「外地経験と詩・表現」をテーマに各々が歩んできた人生が率直に語られました。

パネル3では、パネル1、パネル2にご登場いただいた先生方、詩人の白石かずこ氏、吉増剛造氏にも加わっていただき、東アジアの詩の未来について一言メッセージを述べられた後、母語によるポエトリー・リーディングがなされ、各パネリストの迫力ある詩の朗読に会場が引き込まれました。

最後に、音楽家吉岡しげ美氏による詩の弾き語りが行われました。吉岡氏は、金子みすず、与謝野晶子、茨木のり子など日本の女性詩人の詩や短歌などに曲をつけ、ピアノの弾き語りで人々の心をとらえている方です。

またチカダ賞のお祝いとして、水田理事長による書き下ろし作品である「書かれなかったラブレター」が、吉岡さんによるソロと、JOSAI紀尾井町混声合唱団による四部合唱(特別

2014年6月7日、学校法人城西大学は、紀尾井町キャンパス1号棟ホールにて、「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム」を開催しました。

水田宗子理事長は、2013年12月にスウェーデン大使館より、東アジアの生命と尊厳を表現する詩人に授与される国際的な詩の賞「チカダ賞」を受けました。

チカダ賞は、スウェーデンのノーベル文学賞受賞者ハリー・マッティンソンの生誕100周年を記念して設立された賞で、マッティンソンの詩集『チカダ(蟬の意味)』に由来しています。



パネル1のメンバー



パネル2の様子



パネル3の様子

【当日の進行スケジュール】

- 10:30 ~ 10:40 「チカダ賞について」
ラーシュ・ヴァリエ(駐日スウェーデン大使・俳人)
- 10:40 ~ 11:00 「アニアールについて」
水田宗子(第6回受賞者)

チカダ賞をめぐって

- 11:00 ~ 12:20 **パネル1:「北欧の詩人と東アジアの詩人との出会いとしてのチカダ」**
Shin Kyong Rim(第4回受賞者・詩人)
Moon Chung-hee(第5回受賞者・詩人)
韓成禮(詩人・翻訳者)
有馬朗人(俳人)
ラーシュ・ヴァリエ
水田宗子

- 13:00 ~ 14:30 **パネル2:「外地経験と詩・表現」**
北島(BEI Dao)(詩人)
高橋睦郎(詩人)
財部鳥子(詩人)
田原(TIAN Yuan)(詩人)
水田宗子 ※コーディネータ

- 14:50 ~ 16:00 **パネル3:「東アジアの詩の未来」**
白石かずこ(詩人)
高橋睦郎
財部鳥子
北島
Shin Kyong Rim
Moon Chung-hee
ラーシュ・ヴァリエ
水田宗子
吉増剛造(詩人)
田原
佐川亜紀(詩人) ※コーディネータ

- 16:20 ~ **Concert**
吉岡しげ美コンサート
(※特別参加 JOSAI紀尾井町混声合唱団
(Josai Kioicho Mixed Chorus))

編曲:伊藤康英氏)により披露され会場から大きな拍手が送られました。

このチカダ賞受賞記念国際シンポジウムの記録集『生命の尊厳を表現すること』を2015年1月に発刊いたしました。この記録集には、このシンポジウムに加えて、その後行われました北島と水田宗子対談、文貞姫と水田宗子対談も収録しました。

お問い合わせは、学校法人城西大学出版会(03-6238-8457)までお願いします。



吉岡しげ美氏によるコンサート



特別参加したJOSAI紀尾井町混声合唱団

広がる国際交流

スウェーデンの大学との交流 

水田宗子学校法人城西大学理事長・日本スウェーデン協会会長ならびに城西大学訪問団は、2014年10月5日より11日の日程で、スウェーデンを訪問しました。

主な訪問先は、駐スウェーデン日本大使公邸、民俗博物館、瑞暉亭、カロリンスカ研究所と同病院、ストックホルム近代博物館、東アジア博物館、ストックホルム商科大学欧州日本研究所、ウプサラ大学です。

前駐日大使であるラーシュ・ヴァリエ氏に各所のご紹介ならびにご同道をいただき、森元誠二スウェーデン大使をはじめ、瑞日協会会長カイ・フォークマン氏、ストックホルム商科大学欧州日本研究所長マリー・ソーデルベリ教授、ウプサラ大学エヴァ・オーケソン学長等と面会し、当方よりマイ・ゼッターリングプロジェクトやラウル・ワレンバグ氏生誕100周年記念の植樹式、ヴァリエ前大使のご講演、チカダ賞国際シンポジウムなどこれまでの本学とスウェーデンのかかわりなどを紹介し、相互理解を深めました。

ウプサラ大学からは学生のインターンシップの可能性についてお尋ねがあり、これまでオスロ大学において日本語教授法のインターンシップを実施していることなども伝えたとこ、おおいに興味を示しておられました。

スウェーデンと本学の学術交流について大きな成果を挙げることができました。

また、本訪問団が大使公邸をお訪ねしているときにちょうどノーベル物理学賞の発表がなされ、大使、瑞日協会理事のみなさんとともに日本人の受賞を喜ぶことができました。

今後は、各大学、研究所との交流の進展をはかるとともに、来たる2018年の瑞日交流150周年記念に向けて、実りある活動を行っていきたくと考えています。

その後、2014年10月28日にマリー・ソーデルベリ教授、2014年11月28日にカイ・レイニウス先生の講演会が開催されました。また、2015年3月30日には、ウプサラ大学と共同の"Women Studies and Literatures in Sweden and Japan"と題した国際シンポジウムも開催予定です。

今後は、各大学や研究所との交流の進展をはかるとともに、2018年の瑞日交流150周年記念に向け、実りある活動を行っていきたくと考えています。



ウプサラ大学学長とリンネの部屋で
ラーシュ・ヴァリエ前スウェーデン大使とともに



ウプサラ大学貴重本ライブラリにて
ハリー・マーティンソンの手稿を手に



森元誠二大使と発表されたばかりのノーベル物理学賞受賞の
プレスリリースを手に



マリー・ソーデルベリ教授の講演会の様子

日本スウェーデン協会の年次晩餐会が開催

2014年11月25日、学校法人城西大学の水田宗子理事長が会長に就任した日本スウェーデン協会(名誉総裁・常陸宮正仁親王殿下)の年次晩餐会が、東京都港区虎ノ門のホテルオークラで開催されました。

2014年2月に会長に就任した水田理事長は挨拶の冒頭で「今年は6年ぶりに日本人3人がノーベル物理学賞を受賞され、協会としても大変喜ばしく思っております」と述べました。その後、25年間にわたって会長を務め、2013年1月にお亡くなりになったセイコーホールディング名誉会長、服部禮次郎氏の功績に触れ、悦子夫人に感謝状を贈呈しました。最後に「微力ながら協会の発展のために力を尽くしてまいりたい」と結びました。

新スウェーデン大使で名誉会長のマグヌス・ローバック(Magnus Robach)氏はスピーチで「2018年に日本とスウェーデンは国交樹立150年の記念すべき節目を迎えます。新会長のもと私たちの関係はとて強く固いものになると思います」と述べました。2008年にノーベル物理学賞を受賞した名誉会員の小林誠・日本学術振興会学術システム研究センター所長のスピーチに引き続き、乾杯に移りました。

晩餐会には前日本経済団体連合会会長の米倉弘昌・住友化学相談役、常盤豊・文部科学省研究振興局局長、朝比奈豊・毎日新聞社長の方々ら約80人が出席、和やかに歓談しました。

日本スウェーデン協会は「両国民の親睦を深め、文化・経済関係の促進に寄与する」ことを目的に1929(昭和4)年に設立されました。2014年11月末現在の会員数は名誉会員19人、個人会員73人(スウェーデン人会員13人、日本人会員60人)、法人会員33。定時総会のほか、懇親パーティー、スウェーデン要人の来日の際の歓迎行事などを行っています。事務局は学校法人城西大学に置かれています。



スピーチをするローバック大使



スピーチをする小林誠氏

子どもの商業的性的搾取に関する特別講演会 

2014年11月28日、スウェーデンから瑞日友好協会理事のカイ・レイニウス(Kaj Reinius)先生をお招きし、紀尾井町キャンパス3号棟国際会議場にて、特別講演会『Non-issueから世界会議へ"子どもの商業的性的搾取"—国際的対応の成果と今後の挑戦—』を開催しました。

福祉総合学部3、4年生、大学院生、教員及び関係者を含め合計80名が参加し、国際的な福祉の課題について共に学び、考える有意義な機会となりました。

カイ・レイニウス先生は、1990年代より「子どもの商業的性的搾取(commercial sexual exploitation of children=CSEC問題)」という、表面化しないゆえに一層深刻である子どもの人権問題の根絶に積極的に取り組まれています。

CSECに対する反対行動の主体団体であるECPAT(End Child Prostitution in Asian Tourism:アジア観光における児童買春根絶キャンペーンを展開するNGO)の設立経緯や各国での取り組み、この問題の現状と今後の課題についてご講演いただきました。



講演を行うカイ・レイニウス先生

広がる国際交流

水田理事長が世界女性学長会議に出席

2014年9月5日、6日に北京伝媒大学で開催された第6回世界女性学長会議に本学水田宗子理事長が、アジア地区代表理事として参加し、基調講演を行いました。

この会議は、伝媒大学名誉学長劉繼南先生が主催され、二年に一度開催されるもので、本学でも2008年に「高齢社会における女性の学び直し」をテーマに日本会議を開催しています。

今回は、世界41ヶ国71名の女性の大学トップが一同に集い、女性、指導、リーダーシップをテーマにさまざまな観点から、2日間にわたってディスカッションが行われました。日本から唯一の参加者であった水田理事長は、「グローバル教育におけるイノベーションと、各国大学との連携の必要性について」をテーマに講演を行い、多くの賛意を得ました。

また、水田理事長は、日本から唯一の参加者ということで注目を集め、新華社、毎日新聞、中国国際放送など多数のメディアから取材を受け、そのインタビューは世界に向けて発信されました。

最終日には、今後さらに知恵を集め、絆を強め、一層の女性のリーダーシップを高めることを目指すという提言がなされ、盛況のうちに閉幕しました。

【中国国際放送より抜粋】

9月初め、北京にある「中国伝媒大学」の主催で「第6回世界女性学長会議」が行われました。世界54の国・地域からの70人余りの代表者が出席しましたが、日本からの出席者はたった1人。それが水田宗子さんです。

詩人でありながら、批評家、学者、教育者でもあり、さらに、今は大学運営の仕事にも携わっています。このように多角的に活躍するスーパーウーマンこそ、日本でも中国でも輝く女性と言えるのではないのでしょうか。



全員で記念撮影



中国国際放送の取材を受ける水田理事長



分科会で発言する水田理事長

水田理事長へ延辺大学より名誉博士号授与

2014年9月25日、1986年以來の姉妹校である中国延辺大学 (Yanbian University) より、本学水田宗子理事長と森本雅憲城西大学学長へ、長年の交流に関する貢献に対して、名誉教授称号の授与式が行われました。

延辺大学と本学は、28年にわたり年2名ずつの教員派遣を実施し、延辺大学より本学に派遣され研究成果を挙げた34名が薬学博士を取得するなど実りある交流を深めてきました。

延辺大学は朝鮮族が40%以上占める延吉市に位置し、鮮明な民族特徴を有する総合大学として中国政府の「211工程」(中国国内ベスト100位以内の大学)に認定されています。学生数は2千人超、大学院生も多く、韓国、北朝鮮、ロシア、日本などとの交流が盛んです。

延辺大学と城西大学・城西国際大学は、メディア学部、国際交流・国際人文学部など共通する学部があり、本学への留学希望者も多く出ているとのこと。今後の学生交流の進展が楽しみです。



新たな協定のはじまり

広がる国際交流

香港城市大学のWay Kuo (郭位) 学長が紀尾井町キャンパスに来学し講演

2014年4月2日、香港城市大学のWay Kuo (郭位) 学長が2014年度入学式へご臨席のため城西国際大学を訪問し、また夜には、城西国際大学が翻訳を担当したKuo学長の著書『科学者の視点から見た原子力発電の課題と将来性』の刊行を記念した晩餐会を開催しました。

本学と香港城市大学とは、2012年10月に学術交流協定を締結しており、学生交流プロジェクト「Explanation of Japanese Culture and Science」により、これまで城西国際大学から26名の学生派遣、ならびに香港城市大学から20名の学生受入を実施しています。

入学式でKuo学長は「教師や同級生との出会いを大切にしながら、学ぶ姿勢を学び自立心を身につけ、母国語の力に根ざした外国語を習得し、大学生活を人生の素晴らしい出発点としてください」と新入生を激励されました。

その後会場を移し、Kuo学長の著書『科学者の視点から見た原子力発電の課題と将来性』の翻訳出版記念晩餐会「Reception in Honour of President Way Kuo's Japanese Publication」が開催されました。なお、今回、翻訳にあたっては、城西国際大学の中国人教員により組織された翻訳チームが主に担当しました。

また当日は、立川志の春さんによる英語落語の口演もあり、英語で表現された落語独特の人間の持つおかしみは、Kuo学長をはじめとする香港城市大学の一行にも大変好評で、日本の伝統芸能を堪能していただくよい機会となりました。

また、本晩餐会には、香港城市大学からも4名の教員がお祝いに駆けつけるとともに、文部大臣および東京大学総長をつとめられ、現在、学校法人根津育英会武蔵学園長の有馬朗人先生や文化庁長官の青柳正規先生、そして元東北大学総長で、現在城西国際大学グリーンマテリアル研究所所長をつとめている井上明久先生など、本学に縁の深い多くの皆さま方にご参加いただくなど、盛大な会となりました。



入学式でのWay Kuo学長のご挨拶



学生交流プロジェクトで香港城市大学に派遣された学生たちと

ロムアルド・デル・ビアンコ財団と学術交流協定を締結

学校法人城西大学は、2014年7月2日にイタリアのロムアルド・デル・ビアンコ財団 (Fondazione Romualdo Del Bianco) と学術交流協定を締結しました。イタリアを拠点に活動している考古学者である青柳正規文化庁長官の仲立ちにより、この度の締結が実現しました。

1998年に設立された同財団は異文化間の対話を促進し、文化遺産の価値とその重要性を喚起することを目的にフィレンツェを拠点に活動しています。水田宗子理事長は「今回の協定を機にイタリアの大学とも積極的な交流を推進したいと思えます」と挨拶。青柳長官は「今後、双方との交流を深め、積極的な活動を行うことを期待しています」と述べられました。



財団の訪問メンバーと大学関係者による記念撮影

広がる国際交流

国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」開催



本学と埼玉県が共催した国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」が2014年9月16日、城西大学の坂戸キャンパス（清光会館ホール）で開かれました。これは、同12日から14日にかけて東京都内で行われた政府主催の「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」(World Assembly for Women in Tokyo)の地方展開の一つでした。県や女性団体の関係者、地域の方々、教職員や学生計約500人が、世界の第一線で活躍する女性リーダーによる貴重な話に熱心に耳を傾けました。



東京のシンポジウムには、ラガルドIMF専務理事をはじめ世界各国から政治リーダーやビジネスリーダー、有識者が参加。本学のシンポジウムには、米国のシンクタンク・ブルッキングス研究所シニア・フェローのミア・ソリス氏とポルトガルの最先端医療研究施設・シャンパリモー財団理事長のレオノール・ベレーザ氏が参加しました。

当日は開会前にあった地震対応のため急ぎよ欠席した上田清司知事のあいさつ文を福島勤・県民生活部長が代読しました。「(地方イベントを)ぜひ先進県の埼玉県で開いてほしいと国から話があり、本県が誇る女性学の権威である水田宗子理事長に共催開催をお願いしたところ快諾をいただいた」と開催の経緯を紹介しました。また、水田理事長は「上田知事と大勢の男性教職員の理解と協力で、城西の女性は輝いています」と挨拶しました。

講演では、日本の対外経済政策の専門家であるソリス氏が「女性の地位向上に果たす地方政治と地域コミュニティの役割は大きい。それが中央政府、日本の立ち位置を変えていく」と強調しました。ポルトガルの保健大臣などの要職を務めたベレーザ氏は2人の子どもを抱えながら33歳で政府の要職に就くことになった自身の経歴に触れ、「人口の半分を占める女性には素晴らしい才能があるのに生かしきれていない。自分たちの中に障害を作っている」と語りました。

講演後の学生たちの質問に対し、「企業に入ったら良き同僚、良き先輩を見つけることが大事。シャイであってはならない」(ソリス氏)、「自分自身に制限を加えてはならない。自分の仕事をあきらめないでほしい」(ベレーザ氏)などとアドバイスを贈りました。

第13回薬学国際教育セミナーで3名のゲストが講演



2014年6月25日、千葉東金キャンパスH棟プレゼンテーションホールにて、薬学国際教育セミナーを開催しました。講師にはイギリスから国際薬剤師・薬学連合のイアン・バテス教授 (Professor Ian Bates)、アンドレア・ブルーノ博士 (Dr. Andrea Bruno)、荒川直子先生の3名をお招きし、「これから世界、日本が求める薬剤師は?」というテーマで講演をしていただきました。



アンドレア・ブルーノ博士による講演

今後我々が遭遇する問題は、世界のどこかで同じような困難を抱えながら既に試みられているかもしれません。広い視野を持ち、情報を共有し、仲間と議論をしてより優れた解決策を見出す。そんな国際感覚が薬学生や薬剤師に求められつつあることを、会場に訪れた学生や教職員に語りかけていただきました。

広がる国際交流

留学生たちがホームステイや柔道を体験



2014年5月26日から約1カ月間、姉妹大学のスペルマン大学から10名、リーワードコミュニティカレッジから2名、合計12名の学生が千葉東金キャンパスで日本語と日本文化を学びました。

日本人学生と会話パートナーになって、週末には鴨川などを観光しました。日本の家庭へのホームステイは、語学力向上のみならず、日本文化への知識も深める機会となります。

プログラムの中で学生が最も楽しみにしていたのは、本学柔道部の協力のもと6月2日に実施した柔道体験です。柔道着の着方、ルールや技を学び、一部の学生は実際に柔道部の学生と試合形式で汗を流しました。来日直後から強く望んでいた柔道体験であったため、約1時間という短い時間ではありましたが、とても有意義な時間でした。

例年行われるこのプログラムは、約1ヶ月という短い期間ではありますが、会話パートナーを経験した日本人学生にとっても、語学力やコミュニケーション能力の向上にもつながる最良のプログラムとなっています。



柔道体験を終えて記念撮影

プロジェクト教育IV ネパール研修を実施



国際交流学科では、2014年9月にネパールでの研修を10日間実施し、6名の学生が参加しました。

首都カトマンズでは姉妹提携校であるトリブバン大学を訪問し、社会や文化、歴史についての講義を受け、日本語学習者との交流やディスカッションを行いました。その後、市内の小中学校を4校訪問し、衛生教育や図形を使った模擬授業や、教育に関する聞き取り調査を行いました。

カトマンズ郊外の農村部バネバにある小中学校へも訪問し、都市部とは異なる環境にある児童の就学の困難さについても学ぶ機会を得ました。

また現地NGOでは、ボランティア活動や交流を通して、児童や高齢者が置かれている状況を学ぶとともに、人身売買という深刻な問題に取り組む女性団体で当事者を含めたグループディスカッションを行い、人身売買がおきる社会的・文化的背景をより深く考察することができました。



農村部バネバの学校の子供たち

第12回 日本語スピーチコンテストを開催



2014年9月20日、韓国ソウル市にある漢陽女子大学を会場に、今回で12回目を迎えた「城西国際大学日本語スピーチコンテスト」を開催しました。

本年度のコンテストは「国を越えて働くことの魅力とは」をテーマに、予選を勝ち抜いた日本語を学ぶ韓国の高校生、大学生12組が発表を行いました。

冒頭の挨拶で七井誠一郎教務部長は、日頃の日本語学習の成果を発揮する場としてだけでなく、城西国際大学が日韓友好の懸け橋となるべく開催していることを説明し、将来は東アジアの発展に寄与できる人材を目指してほしいとの激励をしました。

韓国姉妹大学の韓南大学校(大田広域市)や建陽大学校(大田広域市)に交換留学をしている国際人文学部日本人学生3名も会場に駆けつけ、参加者や本学留学に関心の高い聴講者、韓国内で日本語教育を担当されている大学の先生方などと日韓の文化交流を行いました。



終了後、全員で集合写真

文化・スポーツ・メディア振興

女性詩人鼎談「女性と詩の世紀をふりかえって」

2014年11月7日、紀尾井町キャンパスにて、「女性と詩の世紀を振り返る」をテーマにした鼎談「Modern Poetry Event II (大地の中に染みる音～女性と詩の世紀をふりかえって～)」が開催されました。

韓国^{ムン・ジョンヒ}の文貞姫氏と伊藤比呂美氏、水田宗子理事長の3人の女性詩人が、詩との出会いから妊娠・出産、外地体験などについて語り合いました。

今回の鼎談は、2013年12月に開催された「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム」にパネリストの一人として参加した文貞姫氏(第5回チカダ賞受賞)と水田理事長(第6回同賞受賞)が同シンポジウム終了後に再会を約束。併せて、80年代の女性詩ブームをリードし、女性による詩のイメージを革新した伊藤比呂美氏も迎えて実現しました。

鼎談の冒頭、伊藤氏は「詩の原動力は18歳で経験した摂食障害。私の詩は社会には向かわず自分の体に向かっていた」と詩との出会いについて語り、文氏は「結婚したら伝統という大きな怪物が待っていた。かわいい詩だけでは不十分だと気付いた」と続けました。

また、水田理事長は「世代の違いは女性の表現を考える点で興味深い。2人のお話はフレッシュで衝撃的」と話し、その後は、それぞれの出産や母性、家父長制、外地体験などをテーマに話が弾みました。

会場では、国内外の詩人や本学の教職員、学生を含めた約170名が熱心に聞き入る様子が見受けられ、質疑応答も大いに盛り上がりました。



左2人目から伊藤比呂美氏、文貞姫氏、水田理事長



鼎談に聞き入る聴衆

「Nuclear Nation & Cinema after 3.11」を開催

2014年7月18日、学校法人城西大学日本／アジア映像研究センターでは、船橋淳監督をお迎えし、「Nuclear Nation & Cinema after 3.11」を開催しました。

紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールにて船橋淳監督の「Nuclear Nation・フタバから遠く離れて」の上映後、船橋監督とのQ&Aを行い、引き続き「Cinema after 3.11」をテーマとしたパネルを行いました。

【当日の進行スケジュール】

- 第I部 13:00-15:30 「Nuclear Nation・フタバから遠く離れて」の上映・船橋監督とのQ&A
 <パネル・ディスカッション・モデレータ>
 リピット水田堯(USC大学教授 学校法人城西大学日本アジア映像研究センター所長)
 一休憩—
- 第II部 15:30-16:00
 16:00-18:00 パネル・ディスカッション「Cinema after 3.11」
 <パネリスト>
 アーロン・ジェロー(Yale 大学教授 学校法人城西大学日本アジア映像研究センター研究員)
 北野圭介(立命館大学教授)
 マーク・ノーネス(Michigan 大学教授 学校法人城西大学日本アジア映像研究センター研究員)
 マーク・ロバーツ(東京大学上廣共生哲学寄付研究部門 上廣特任研究員)
 林千章(城西国際大学研究員)
 ミツヨ・ワダ・マルシアーノ(Carleton大学教授) (遠隔参加)



文化・スポーツ・メディア振興

岡田武史特任教授による講演会を大学祭で開催

2014年11月2日、岡田武史特任教授による特別講演会が、大学祭のイベントの一環として東金キャンパスで行なわれました。

会場には本学サッカー部員のほか、地域の方々も多数詰めかけ、立ち見が出るほどの盛会となりました。

講演は「2014年ブラジルワールドカップを振り返って」という演題で、NHKアナウンサーの鳥海貴樹氏を聞き手役にトークショー形式で進められました。

岡田先生が日本代表監督だった当時のことを交えながら、ワールドカップ実況コンビならではの軽快なやり取りから、普段なかなか聞くことができない裏話や独自の視点からの大会総括をしていただきました。



岡田特任教授(右)と鳥海NHKアナウンサー(左)

イノベーション・マネジメント公開講座を開催

2014年5月16日、学校法人城西大学イノベーションセンター主催、城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科共催により、イノベーション・マネジメント公開講座が行われました。

講師にカリフォルニア州立大学名誉教授でジョイ・オブ・ワーク推進協会理事長の吉田耕作氏をお招きし、『イノベーション力を高める新グループ活動』という演題でご講演いただきました。

吉田氏は、1980年代米国産業の復権に貢献したエドワード・デミング博士の右腕として、32年間米国でご活躍されました。また、1997年帰国後、日本の国際競争力の低下を前にして、日本再生の活動を始めておられます。

講演では、日本の組織マネジメントの問題点とその克服のための課題、日本の産業の国際競争力の再強化の方策についてお話いただきました。特に具体的には、ジョイ・オブ・ワーク環境下で、イノベーションをすすめ、生産性の向上をめざす新しいグループ活動についてその概要とマネジメント手法のエッセンスをお話いただきました。

会場では多くの大学院生や一般の聴講者が熱心に耳を傾け、質疑応答では終了時間を過ぎてもお教室に残り様々な議論が繰り広げられました。



吉田耕作氏による講演

Special Lecture 『日本と欧州の経済関係』講演会

2014年10月28日、本学のスウェーデン出張においてミーティングを行いましたストックホルム商科大学欧州日本研究所所長マリー・ソーデルベリ教授をお招きし、講演会を開催しました。

スウェーデン、欧州における日本研究の重要な拠点である欧州日本研究所の所長を務めておられるソーデルベリ教授による 欧州と日本の関係についてのご講義は、非常に意義深いものでした。多くの参加者も興味深く講演に耳を傾けていました。

- 【当日の概要】 ・日時:2014年10月28日(火) 午後4:00～(開場 午後3時30分～)
- ・会場:学校法人城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟 5F国際会議場
- ・主催:学校法人城西大学 JICPAS、城西大学 経営学部
 城西国際大学 経営情報学部、大学院 国際アドミニストレーション研究科
- ・参加費:無料



文化・スポーツ・メディア振興

「はままつ映画祭2014」にて「観客賞第1位(グランプリ)」を受賞

静岡県の「はままつ映画祭」において、中川寛崇さん(メディア学部・映像芸術コース4年生)が監督をつとめる作品『紙ひこうき』が「観客賞第一位(グランプリ)」を獲得しました。

同映画祭は、静岡県浜松市出身の映画監督・木下恵介氏を記念して2002年に誕生し、監督の功績と監督が愛した映画を次世代に伝えると共に、浜松における映画/映像文化の振興と全国への文化発信、さらに、地域の活性化を目的としています。

そして、全国からの公募作品上映の際の来場者へのアンケートを集計した結果、上位3作品を選び、表彰します。

中川さんはこれまでも、『雨男日記』や『ピクシー』等、数多くの監督を務めた中川寛崇さん(右)

作品で様々なコンクールでの受賞歴があり、今回の受賞は自身の4年間の学修の集大成となりました。今後もメディア学部では、この中川さんの受賞に続くことができるような、将来の映像産業を担う、専門性の高い人材育成に取り組んでいきます。



監督を務めた中川寛崇さん(右)

学生記者として千葉日報の紙面を製作「CHIBA University Press」

千葉県内の大学生が「新聞記者」となって取材し、各大学ごとに紙面を製作して千葉日報紙面に掲載する「CHIBA University Press」が、2014年3月7日の研修会を皮切りにスタートし、同年9月23日の閉講式をもって終了しました。このプロジェクトは、メディアリテラシー能力と情報発信力の育成を目的として実施されています。

3回目となる今年は、メディア学部の2年生6名が参加し、取材の方法、記事の書き方、写真の撮り方、紙面レイアウトなどについて学んだうえで、学生の眼から見たさまざまな社会事象を紙面化しています。社会について考えることの重要性、紙面を通して情報発信することの責任を学び、貴重な体験をさせていただきました。



参加した学生記者6名

千葉県助産師会との協賛で特別講演を開催

2014年11月17日、東金キャンパス水田記念ホールにおいて、本学看護学部学生を対象に、月経周期とホルモンの関係や、国内外の若者の性行動の実態や課題(JKビジネス・性感染症・若年妊娠・買春・人身売買)について学ぶことを目的として、特別講演『助産師が伝える男子力・女子力UP講座—自分を知り、自分を守るために生と性の在り方を学ぼう—』を千葉県助産師会の協賛で開催しました。

参加した学生からは、「自分を知ることが大切だと考えるようになった」などの意見が数多く寄せられる等、性に関する世界の現状と課題を自身と重ね、それらを主体的に捉えるきっかけとして、実りある講演となりました。



助産師会での講演

文化・スポーツ・メディア振興

患者講演会 II 「命ある限り道は拓かれる!」開催

2014年11月26日、水田記念ホールで「患者講演会 II」が開催されました。ALS患者である船後靖彦氏から「命ある限り道は拓かれる一君にはあるか! 自由の道を行く勇気」と題された講演を行なっていたが、福祉総合学部、薬学部、看護学部の学生約300名が聴講しました。船後氏には、難病をどのようにして受け入れていったのか、日々の生活でどのようなサービス等を利用しているのか、自らの「生」や「死」についてどのような考えを持つに至ったのかなど、貴重なお話をいただきました。

ご自身の声では話せないため、長時間かけてパソコン入力された原稿を、音声変換器によって伝える方法で講演がなされました。学生たちは、船後氏のような重度の医療サービスを必要としている方々の思いを受け止め、支援していくためのチームケア等について学びを深めることができました。



船後靖彦氏と療養デイサービスのケアを行っている佐塚みさ子氏

第14回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会

2014年12月26日、「学校法人城西大学創立50周年記念 第14回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」が開催されました。

本大会は水田三喜男先生が学生時代に柔道に勤しんでいたことにちなみ開催され、冬の風物詩として、また来年度の高校柔道界の行方を占う大会として注目されています。

男子決勝は今年度インターハイ3位の大成高校と高校2冠を達成した修徳高校が対戦。大成高校が初出場、初優勝の快挙を成し遂げました。女子決勝は桐蔭学園高校と修徳高校が対戦し、代表戦の末、63kg級ジュニア世界王者の嶺井選手が70kg級ジュニア日本王者の杉山選手から一本勝を収め、桐蔭学園高校が初優勝を飾りました。

優勝	男子 大成高校(愛知県)	女子 桐蔭学園高校(神奈川県)
準優勝	男子 修徳高校(東京都)	女子 修徳高校(東京都)
第3位	男子 埼玉栄高校(埼玉県)	女子 創志学園高校(岡山県)
	桐蔭学園高校(神奈川県)	富士学苑高校(山梨県)
優秀校	男子 田村高校(福島県)	女子 長崎明誠高校(長崎県)
	白鷗大学足利高校(栃木県)	藤枝順心高校(静岡県)
	崇徳高校(広島県)	敬愛高校(福岡県)
	國學院栃木高校(栃木県)	埼玉栄高校(埼玉県)
最優秀選手	男子 神取剛選手(大成高校)	女子 嶺井美穂選手(桐蔭学園高校)



柔道大会(男子)の様子

第14回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会

全国の強豪剣士が、2015年2月1日、本学スポーツ文化センターで凌ぎを削りました。3月の全国高校選抜大会に出場を決めている高校を含め、北海道から九州までの男女合わせた68チームの名だたる強豪校が出場しました。

試合は、予選リーグから白熱戦が繰り広げられ、決勝トーナメントにおいては予想どおりの強豪校が出揃い、8試合が代表者戦を行うなど僅差の大接戦が展開され、自ずと場内は拍手と声援と熱気に包まれました。

その中であって創立者の冠旗を勝ち取った男子の酒田光陵高校(山形)は、昨年のインターハイで全国制覇し、昨年は3位となった高輪高校(東京)を抑えて見事初優勝に、女子の決勝戦では本大会、全国大会共に数度の優勝経験のある名勝守谷高校(茨城)を昨年の覇者阿蘇中央高校(熊本)が大將戦で破り、見事、連続優勝の栄冠に輝き、法人創立50周年記念に相応しい剣道大会として幕を閉じました。



男子優勝校 — 酒田光陵高校

国際人材の育成

第20回チェコ語弁論大会を開催



2014年5月17日、チェコ共和国大使館の主催による「第20回チェコ語弁論大会」が紀尾井町キャンパスの地下ホールで開催されました。

現在、チェコ共和国大使館が改修中であるため、中欧諸国の大学との学生交流および人材育成に積極的に取り組み、同地域での教育交流および文化交流の実績を積みあげている本学が、昨年に続き会場を提供いたしました。

大会の開催にあたり、水田宗子理事長は、「昨年に続き、チェコ語弁論大会が本学で開催されるのは誠に光栄です」と述べました。続いて、カテリーナ・フィアルコヴァー大使から「チェコ語弁論大会も今回で20回目を迎え、大変嬉しく思っております。ここ数年、チェコ語を学ぶ日本の方は多くなっており、今回の弁論大会には、予想以上の応募があったため、急遽2回に分けて行うことになりました。会場を提供して下さった水田理事長をはじめ関係者の皆さま方に心よりお礼申し上げます」とのご挨拶がありました。

今大会には、チェコ語を学んでいる社会人・学生13名が出場しました。5分間の持ち時間で、「チェコ音楽年2014—チェコ音楽と私」と「私のお気に入りの町」の2つのテーマからいずれかを選んで発表し、発表後に審査員から質疑を受けました。

カテリーナ・フィアルコヴァー大使、東京外国語大学の篠原琢教授、東京外国語大学のマルケータ・ゲプハルトヴァー特任講師、外務省中欧課の東海林郁夫氏、昨年度の優勝者の檜田ひかりさんからなる5名の審査員による厳正な審査を経て、大変豊かな表現力（フィアルコヴァー大使評）が認められ、細田春音さんが1位に選ばれました。また、「水田宗子理事長賞」には、井上美和子さんが選ばれました。井上さんは看護師として勤務される中、自宅でチェコ語を勉強しておられます。優れたチェコ語の能力に加え、大変なご努力が評価され、選考の決め手となりました。

表彰式後の懇親会では、チェコ大使館のシェフによる軽食が用意され、参加者全員が交流し、親睦を深める機会となりました。

本学は、チェコのカレル大学、マサリク大学、プラハ経済大学の3校と学術交流協定を締結しており、セミナーや講演会を主催する等、積極的に国際交流を展開しています。

今後もグローバル人材の育成に向けた国際交流活動の強化の一環として、チェコを含む中欧地域とより一層の学術交流を行っていきます。



第20回チェコ語弁論大会の参加者たち

水田宗子V4奨学生表彰式



2014年9月30日、「水田宗子V4（ハンガリー、ポーランド、チェコ、スロバキア）奨学生表彰式」が、紀尾井町キャンパスにて行われました。

この奨学金は、2009年にハンガリー共和国のショーヨム・ラーズロー大統領が、本学を表彰訪問されたことを記念して設立されました。5年目を迎えた今回は、新たにスロバキアからの留学生を対象に加え、V4諸国において更なる国際交流活動の強化が期待されています。

授与者を代表して、観光学部のトート・ボグラルカさんが授与の謝辞および決意表明を行い、奨学金により安心して勉学に励めることに対して、水田理事長および関係者への御礼とともに「留学する1年間で日本のさまざまな伝統や日本の経済・社会などを学びたい」と述べました。



V4学生親善交流大使とともに

国際人材の育成

MSU薬学部1年生が埼玉医大国際医療センターでAnatomy実習



本学の姉妹校であるマレーシアのマネジメント&サイエンス大学（Management and Science University: MSU）より、2014年9月から同大学薬学部の1年生5名がセメスター交換プログラムで来日し本学で学んでいます。このたびその授業の一環として、Anatomyの実習を埼玉医大国際医療センター病理診断科（院長：小山勇教授、科長：安田政実教授）の協力を得て、11月22日に教員とともにセンター病院内にある実習室を訪問し、実習を行いました。

学生たちは、安田教授のご指導のもと、顕微鏡下で人体のミクロ標本の観察、スケッチに没頭していました。

本学とMSUは、2010年1月に学術交流協定を締結して以降、薬学部を中心に短期交換プログラム、セメスター交換プログラムを中心にした学術交流を積極的に進めてきました。

MSU薬学部の1年生が本学をセメスター交換プログラムで訪れるのは本年度が初めてで、授業は本学教員によりすべて英語で行われております。Anatomy, Immunology, Microbiology, Physiologyなどを学ぶとともに本学学生との交流を通じて日本の文化にも触れています。

城西大学とMSUの各種交換プログラムを通じて、両校の交流がますます深まることが期待されます。



熱心にメモをとる学生

国際交流プログラムが「海外留学支援制度」に採択



本学の国際交流プログラムが、日本学生支援機構「海外留学支援制度」に計20件（城西大学13件、城西国際大学6件、城西短期大学1件）採択されました。

この制度は、諸外国に所在する大学へ留学する日本人学生等に必要な経費を支援することにより、留学生交流の一層の拡充を図り、国際的にも指導的立場で活躍できる優秀な人材の育成および高度化に努め、グローバル人材の育成に必要な日本人学生の海外留学を促進するとともに、日本の国際化・国際競争力強化に資することを目的として、日本学生支援機構が毎年実施をしています。

今回これらの採択により、プログラムに参加する学生の経済的負担が軽減されることで、本学の目指す国際社会でも活躍でき、広い視野を持つ創造的な人材の育成がより身近なものになると期待しています。

（短期派遣 短期研修・研究型：派遣先大学等との連携により作成されたプログラムに基づき、学生を派遣するもの）

- 城西大学10件
- 城西国際大学6件
- 城西短期大学1件

（双方向協定型：授業料免除の内容を含む学生交流協定に基づく交換留学として、協定相手の派遣先大学等へ学生を派遣し、かつ協定相手の高等教育機関から学生を受け入れるもの）

- 城西大学3件



採択プログラム：Asia Summer Program



採択プログラム：グローバル人材育成基盤教育プログラム：マレーシア編

国際人材の育成

米国スポーツビジネス・マネジメント研修

2015年2月1日から11日の行程で行われた、「米国スポーツビジネス・マネジメント研修」は、アメリカ・カリフォルニア州リバーサイド校において実施されました。城西大学経営学部と現代政策学部にも所属する女子ソフトボール部21名と、スポーツに関心の高い3名の学生を加え24名が参加しました。

英語のクラスはもちろんのこと、スポーツと深い関わりを持つゲストスピーチ、さらにはスポーツ観戦が主な内容です。今回は女子ソフトボール部が参加のほとんどを占めており、姉妹校であるUCR女子ソフトボールチームと親善試合も行われました。試合前のセレモニーでは、大勢の観客を前に、斎藤美里(経営3年)が英語で圧巻のスピーチを行い、大歓声の中で素晴らしい経験を積みました。

試合後は、お互いのチームが言葉の壁を越えて、感謝の気持ちを伝えあうというフレンドシップマッチにふさわしい光景が繰り広げられました。このような素晴らしい機会をいただけたことに感謝し、学生には在学中も、そして社会に出た後もグローバルな世界に臆することなくチャレンジして欲しいと願っています。



UCR女子ソフトボール部との交流戦

女性リーダー育成奨励生表彰

本学では、意欲ある女子学生を、社会で活躍できる優れたリーダーに育てることを目的として、2006年、水田宗子理事長の寄付により、女性リーダー育成奨励制度が創設されています。

今年度の表彰式は、12月18日、紀尾井町キャンパス3号棟5階国際会議場にて、水田理事長はじめ、副学長、学部長らの陪席のもと、和やかに執り行われました。

当日は、JUI学会(女性学)が同会場で開催されており、女性リーダー育成奨励生は、午前の開会式と基調講演、午後の前年度女性リーダー奨励生報告会にも参加しました。

なお2015年3月には、4名の奨励生がハンガリー研修に参加する予定です。奨励生が欧州の地でどのようなリーダーシップを学んでくるか、大いに期待されるところです。



水田理事長より表彰される学生

世界へ飛躍!グローバルビジネスリーダー育成プログラム

2014年10月18日に出発した経営情報学部生29名が、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB)での52日間の現地プログラムを終了し、12月8日に帰国しました。

学生の希望により滞在は大学寮とホームステイに分かれ、大学での勉強とアメリカでの生活体験についてさまざまな感想が寄せられました。そのいくつかを紹介します。

ネイティブの友達をたくさんつくることができ、帰国してからも英語を話す楽しみができた。このプログラムに参加して将来の視野が海外に広がった。英語の勉強だけでなく、日常生活の中で店頭の商品の種類と陳列、サービスの仕方の違いを学ぶことができた。日本の中からではわからない日本の良いところや悪いところを理解できた。自分の眼で見て得られるものを初めて実感した。等。

この留学プログラムに続いて、グローバルカレッジ科目、イングリッシュカフェなど、更に英語コミュニケーション能力を高めるプログラムが準備されています。世界へ向かって飛躍、全員がその第一歩を踏み出しました。



7週間プログラムを終えて

子どもたちとともに

「子ども大学にしているま」を開催

城西大学では、坂戸市、毛呂山町、越生町、明海大学と共に平成24年度から「子ども大学にしているま」を開校しています。

子ども大学は2002年にドイツのチュービンゲン大学で始まり、日本では全国に先駆け埼玉県が実施しており、子どもの学ぶ力や生きる力を育み、地域で地域の子どもの育てるしくみを作るために開校しました。対象は小学4年生から6年生で、地元の大学のキャンパスなどで教授や地域の専門家が大学や地域の特色を生かした講義や実習を行っています。

今年の「子ども大学にしているま」では、小学生45名が化学的な実験に加え宇宙の不思議などをテーマに講義を行いました。在学もサポーターとして参加しており、実験の説明や補助の他、小学生からの質問に答えていました。参加した学生からは、「実験がおもしろかった」「大学に入ってもっと勉強したい」などの感想をいただきました。



棒が消える液体

第9回全国高等学校情報科学競技大会を実施

2014年3月22日、紀尾井町キャンパスで本学主催の第9回全国高等学校情報科学競技大会が開催され、応募のあった23校184名の高校生が、情報処理の基礎・応用問題に挑戦しました。

ITパスポート(IP)部門の試験は午前65分、システムエンジニア(SE)部門は午前45分、午後45分行われました。昼食後は本学本田実教授によるワークショップを開催。

今回の大会は、紀尾井町キャンパスで情報マネジメントコースを選択している学生が運営に関わりました。経営情報学部は、ITに関する知識を身に付けたグローバルな人材育成を目標とし、初期教育を担う高等学校教育を支援しています。



IP部門団体で優勝した方々

【IP部門(団体)】 優勝: 静岡県立沼津商業高等学校 準優勝: 埼玉県立深谷商業高等学校 第3位: 千葉県立千葉商業高等学校
【SE部門(団体)】 優勝: 千葉県立千葉商業高等学校 準優勝: 静岡県立沼津商業高等学校 第3位: 群馬県立前橋商業高等学校

インターナショナル子どもクリスマス会を開催

2014年12月12日、城西国際大学同窓会グローバルユースのご協力のもと、子ども福祉コース主催で「インターナショナル子どもクリスマス会」を開催しました。

7回目となる今回は、東金市立正気幼稚園の子どもたちを招待し、学部の1年生が進行役、3年生が影絵、ノルウェーからの留学生が日本語でのノルウェー紹介をそれぞれ行いました。

クリスマスソング「あわてんぼうのサンタクロース」を会場の全員で歌った後、学生扮するサンタクロースとトナカイから子どもたちに、手作りのクリスマスカードと、本学主催の絵本コンテストで大賞を受賞した絵本『ゆきのトナカイ』をプレゼントしました。学生は子どもたちとの関わりや異文化交流、行事運営の実践から、児童教育の学びをさらに深めました。



日本語でのノルウェー紹介を行ったノルウェーからの留学生

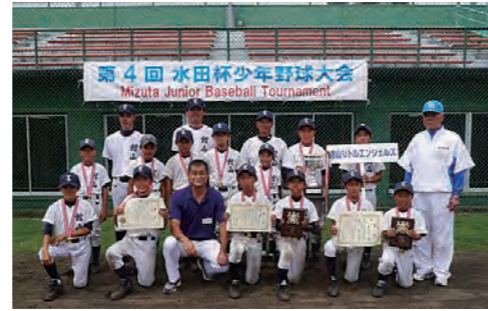
子どもたちとともに

第4回水田杯少年野球大会、第6回水田宗子杯女子ソフトボール大会 

2014年7月12日、13日、20日、「第4回水田杯少年野球大会」が鴨川市内で開催され、14チームが参加しました。本大会は南房総地域のスポーツ振興を目的に毎年開催。市営球場を中心にトーナメント戦を行い、館山リトルエンジェルスが2年ぶり2度目の優勝を果たしました。大会会長の石毛宏典教授は閉会式で「勉強以外の大切なことを教えてくれる野球を今後も続けて欲しい」と語りました。

一方、8月19日～20日、千葉東金キャンパスで、「第6回水田宗子杯女子ソフトボール大会兼第53回千葉県高等学校東房総地区女子ソフトボール大会」を開催。8チームが出場。

大会の企画・運営に携わっている女子ソフトボール部員たちは日頃から地域スポーツ活動を行っており、8月に実施した大網中学校ソフトボール部との合同練習ではピッチングなどの技術指導を行いました。



優勝チームと共に

第2回川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会 

2015年1月10日、11日の2日間、本学のPRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)にて、「学校法人城西大学創立50周年記念 PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK 第2回川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会」を開催しました。

今大会は、山武郡市の少年サッカー16チームが参加し、2日間の熱戦を繰り広げました。1日目の予選リーグで1位だったみずほFC、九十九里JFC、日吉台SC、ときがねFCの4チームで1位リーグを行った結果、大会を通して全勝したみずほFCが見事に初優勝を飾りました。

2日目の閉会式では、岡田武史氏(本学特任教授、元サッカー日本代表監督)より「サッカーを好きになって、夢や目標を持ち、自分で考えて行動することが大切。サッカーを通して世界で活躍できる人になってほしい」との講評をいただきました。



優勝チーム「みずほフットボールクラブ」

NGO・NPO支援センターによるチャリティウォーク&ラン 

2014年11月16日、国際人権NGOヒューマンライツ・ナウは世界子どもの日を記念して「チャリティウォーク&ラン」を開催し、本学学生5名が出場。学生たちはイベントに参加し、皇居周縁を子どもたちと一緒に走るにより、途上国の子どものおかれた状況や子どもの人権について考える機会に繋がりました。このイベントに参加した学生は、今後、国際NGO オックスファム・ジャパン主催の「歩く国際協力イベント」「トレイルウォーカー東北2015」にも参加します。そのためにも現在、途上国や復興支援となる募金活動やバザーを行ない、また体力作りにも励んでいます。

このようにNGO・NPO支援センターでは、世界が抱える問題や国際協力について、学生がより深く学びあえる機会を提供するとともに、各種ボランティア活動や研究活動を支援しています。特に東日本大震災以降、千葉県内をはじめ東北でも震災復興ボランティアを行っています。これまでも東北にある児童館を複数訪問し、地元の小学生に様々な国の言語や遊びを教えるプログラムを、国際ボランティアNGO NICEと共に実施し、アメリカ(ハワイ)やオーストラリア、中国、ポルトガル、スペインの遊びや言語を子どもたちに紹介してきました。また都内では、NGOセカンドハーベスト・ジャパンが上野公園で実施している炊き出しボランティアにも参加するなど、年間を通じて様々なボランティア活動を支援しています。



チャリティーランを行った学生たち

学生の活動

戴帽式～Threshold Ceremony～ 

2014年9月17日、水田記念ホールにて、看護学部第3期生の戴帽式を挙行了しました。この式典は病院での実習を前に、看護職への自覚を深める目的で、ナースキャップを戴くものです。

式に臨んだ第3期生120名は、第2期生や保護者、学生たちのために奨学金制度を設けた地元自治体や病院関係者の方々が見守られるなか、水田宗子理事長や看護学部教員からナースキャップ(男子学生には左腕にワッペン)が渡されました。

その後ろうそくの灯火を手に、学生自らが考えた「誓いの言葉」を唱和し、決意を新たにしました。また、前年に戴帽された第2期生から第3期生に向けて、先輩から引き継いだナースキャップへの想いと、激励の言葉が贈られました。



水田理事長から戴帽

eco検定アワードで優秀賞を受賞 

東京商工会議所が主催する「eco検定アワード2013」エコユニット部門において、本学環境社会学部のエコユニット「Team Eco JIU」が優秀賞を受賞しました。

「Team Eco JIU」は、eco検定に合格した「エコピープル」を中心に、環境社会学部生30名が参加している環境活動チームです。学生たちが主体となって大学祭で発生したプラスチックごみや割り箸等を循環資源として分別回収する「エコ・ステーション」の活動や、地域イベント会場でのリサイクル啓発活動等が評価され、この度の受賞となりました。



Team Eco JIUのメンバー

ACジャパンCM学生賞での奨励賞受賞報告 

2014年3月26日、汐留電通ホールにて「第10回ACジャパンCM学生賞」の表彰式が開催されました。本学は、桜井ゼミ4年生大木香をリーダーに、木村紀香、伊丹彩華、福田俊吾、森雄弥、宇佐美菜由の企画制作に加えて、3年生の高野碧、角花啓斗、渡辺雄太、多巻麻菜が加わり、さらに2年生の土井拓郎、島津智仁、1年生の村上篤、昼間将太、野口和利、高橋啓介、堀越がスタッフとして参加しました。「思いやり」をテーマに『ばあちゃんの遠い道篇30秒』を制作・出品し、全国から応募された132点もの秀逸な作品の中から選ばれ、今回は奨励賞を受賞しました。

年ごとに応募校、作品数が増えて作品レベルは確実に上がり、見ごたえのある作品ばかりでした。今回は、1年生、2年生が多数製作協力で参加しました。その協力もあって、受賞することができました。



表彰式の様子

学生の活動

「TOKYO DESIGNERS WEEK 2014」にて
学校作品展入賞およびプレゼンテーション部門1位を獲得

城西国際大学メディア学部クロスメディアコースの学生が制作した体験型メディアアート作品『Intentions』が、2014年10月26日から11月3日まで明治神宮外苑にて開催された「TOKYO DESIGNERS WEEK (TDW) 2014」のASIA AWARDS学校作品展にて入賞しました。学校作品展にはフランスやイスラエル等海外11カ国を含む64チームが参加し、本学は二次審査通過6校に選ばれ、最終審査で英語によるプレゼンテーションを行いました。また、全参加校によるプレゼンテーション大会では1位を獲得しました。

TDWは2014年で29年目を迎えたデザインやアートによる国際的イベントで、2014年は10日間で11万5千人以上が来場し、海外メディアからも注目されています。本学ブースにも約2万人の方が訪れ、見た目のインパクトと予期しない動きによって驚き、作品を楽しまれました。2014年のテーマは「MY AVANT-GARDE」で、学生たちは「体験者がそれぞれ感じるアバンギャルド」というコンセプトのもと、2100枚の紙製の羽からなる作品を、作品本体からプログラムまですべて手作りで5ヵ月もの期間をかけ制作しました。開催中はアーティストやデザイナー、企業の方等多くの来場者と交流をはかりました。



作品「Intentions」を体験する来場者



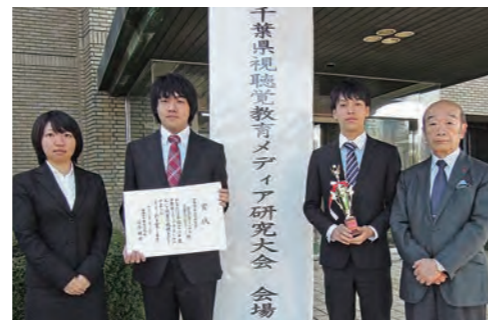
最終審査での発表

平成26年度千葉県メディアコンクールで優秀賞

「平成26年度千葉県メディアコンクール」において、メディア学部クロスメディアコース・山武郡市文化記録プロジェクトの学生が制作した『山武杉』が、〈優秀賞〉を受賞し、特別賞として「NHK千葉放送局長賞」を受賞しました。表彰式は2015年1月26日、千葉県教育センターで行われ、担当した3年生の古澤恭子、増淵健太、夏海一輝の3名が出席しました。

『山武杉』は、明治の中頃、蕨真一郎の手によって〈さし木〉という方法で広められた杉で、枝が広がらない、花粉をつけない、幹の太さが均等、淡紅色で美しい、などの優れた特徴を持っており、高級家具や建築材として親しまれてきました。

この作品では山武杉の伐採から搬出までの行程、建築材として使われている現状、最近、問題になっている非赤枯性溝腐病の被害とそれを克服しようと努力する地元の人々の様々な研究と試行を取材し、山武郡地域の財産でもある山武杉の現状を描きました。



千葉県メディアコンクールで優秀賞
左から古澤さん、夏海さん、増淵さん



『山武杉』の一コマ

建築賞受賞

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年 さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中核を担うシンボリックな建物です。同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。



❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞しました。

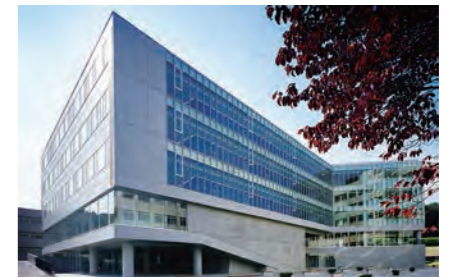


❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 米国建築家協会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会 (AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より、2008年度メリット賞を受賞しました。AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。



❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年 日本建築学会賞
2006年度 日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周囲の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



❖ 旧水田家住宅(母屋)

❖ 城西大学水田美術館

2012年 米国建築家協会Merit賞
2013年 アーキタイザー・アワード特別賞

城西大学水田美術館は、米国建築家協会ニューヨーク支部より、AIANY Design Awards2012のMerit賞を受賞しました。また、インターネットによる世界最大の建築物のコンペティション「アーキタイザー」より、2013年アーキタイザー・アワードの特別賞を受賞しました。

本美術館は、学校法人城西大学45周年記念事業として建設されたもので、大学所蔵の美術品展示のみならず国際交流・地域交流をさらに発展させる芸術・文化の拠点です。



❖ 水田美術館外観

美術館

2014年度 水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2014年度の活動をご紹介します。

【城西国際大学水田美術館】

◆水田コレクション新収蔵品展

会 期：4月2日[水]、4月8日[火]～26日[土]

内 容：学校法人城西大学創立者の故水田三喜男が収集した肉筆浮世絵、近代日本画など12点が、このたび、新たに水田家より寄贈されました。江戸中期の美人画家、宮川長春による《江戸風俗図巻》や、上村松園、鏗木清方、伊東深水による近代美人画の優品のほか、菱田春草、前田青邨の作品等をお披露目しました。

関連企画：ギャラリートーク 4月12日[土]、19日[土]

◆浮世絵でたどる房総の旅

会 期：6月10日[火]～7月5日[土]

内 容：かつての旅は、寺社参詣を目指しつつ、道中の名所・旧跡をめぐるものでした。江戸時代後期に旅が一般の人々にも身近になると、江戸から近く、新勝寺をはじめとした有名な寺社や名勝に恵まれた房総にも、多くの人々が訪れました。本展では、「成田山への旅」「東国三社参詣と磯巡りの旅」「南総の旅」に分け、風景版画と紀行、図誌などでその旅程を紹介しました。

関連企画：講演会「近世房総の旅」山本光正氏 6月20日[金]
ギャラリートーク 4月12日[土]、19日[土]

◆水田コレクション浮世絵展 江戸のきもの

会 期：9月24日[水]～10月11日[土]

内 容：ファッションリーダーであった遊女や役者、また庶民の暮らしが描かれた浮世絵は、江戸時代の服飾文化を伝える格好の絵画資料です。小袖が普及したこの時代、人々は季節や行事に合わせ、素材や模様、着こなしに変化をつけ、華やかに、また粋に装うことを楽しんでいました。本展では、肉筆浮世絵や錦絵、実際に着用されていた小袖から、きもの多彩なデザインやその展開を紹介しました。

関連企画：講演会「小袖の系譜」須藤良子氏 10月11日[土]
ギャラリートーク 9月27日[土]、10月4日[土]

◆糖業協会コレクション 日本近代洋画の輝き

会 期：10月28日[火]～12月6日[土]

内 容：昭和11年(1936)の糖業協会設立以降に収集されたコレクションには、昭和戦前期を中心に、日本近代洋画史に欠かせない画家の質の高い作品が揃っています。藤島武二、梅原龍三郎、須田国太郎をはじめ、洋画壇に新風をもたらした独立美術協会の画家たちなど、西欧に倣いながら、日本ならではの洋画を追求した時代の個性豊かな作品を紹介しました。

関連企画：講演会「昭和前期の洋画」河田明久氏 11月26日[水]
ギャラリートーク 11月8日[土]、29日[土]



美術館

【城西大学水田美術館】

◆水田コレクション展 浮世絵版画の技巧と表現

会 期：4月22日[火]～5月17日[土]

内 容：17世紀後半に菱川師宣が版行した墨摺り一枚絵から始まった浮世絵版画は、明和2年(1765)に、鈴木春信らによって多色摺木版画へと発展しました。本展では、摺りの洗練された技巧と、表現の工夫に注目し、300年の伝統を持つ浮世絵版画の高度な技術と制作の秘密をご紹介します。

関連企画：浮世絵版画の摺り実演会(公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団)4月26日[土]
ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)5月17日[土]



◆河上恭一郎ガラスの世界—ガラスに心を癒すかたちを求めて半世紀—

会 期：7月9日[水]～8月9日[土]

内 容：ガラス工芸作家の河上恭一郎氏(1933～)が50年という長きに渡って見つめて続けてきたガラス素材を活かした作品の数々をご紹介します。「用の美」から「オブジェの美」へと幅広い展開を示す氏の作品群を展示しました。

関連企画：7月19日[土]・26日[土]
作家によるギャラリートーク/ワークショップ(ガラス作り体験)



◆食べて健康! 浮世絵にみる江戸の食

会 期：11月11日[火]～12月6日[土] ※11月2日～4日高麗祭特別公開

内 容：2013年「和食」が世界文化遺産に登録され、近年、国内外における日本食への関心は高まっています。和食のほとんどは江戸時代に始まったとされ、豊富な調味料や食材とともに江戸時代の食生活は豊かになりました。本展では、「江戸の食」をテーマに、浮世絵や料理本、江戸の料理を再現した料理標本を通して江戸時代の食文化をご紹介します。

関連企画：ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)11月29日[土]



【学校法人城西大学3号棟ギャラリー】

◆エヴァ・ヴァリエ Fibers & Fragments Selected Works, 1998-2014

会 期：2014年5月14日[水]～6月12日[木]

内 容：スウェーデン出身の工芸作家エヴァ・ヴァリエ氏の作品をご紹介します。日本の謡曲本を用いた作品をはじめ、1998年から2014年までに制作された作品32点を展示しました。

会 場：学校法人城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟
水田美術館アートギャラリー



「国同士が情報交換をする有益性」



駐日スロヴェニア大使
ヘレーナ・ドルノウシェク・
ゾルコ閣下

私たちがお互いの国の教育環境について情報交換をし合うことは、非常に有益であると日々感じています。ここ数年で城西大学とスロヴェニアの各大学は、積極的にその関係を強固なものにしてきました。今後、ノヴァ・ゴリツァ大学とプリモルスカ大学が城西大学と協定を結ぶことも決定しています。スロヴェニアの大学は、EUをはじめとする様々な国との学术交流に特に力を入れてきましたが、城西大学にもその一員として加わっていただけることを心から嬉しく思っております。

昨年12月には城西大学中欧研究所において、20世紀のスロヴェニアと日本の歴史を両国の専門家たちがともに研究する機会が設けられましたが、これを契機とし、男女共同参画や女性の活躍推進、機会平等や人権にも取り組んでいきたいと思っております。女性の大使である私にとって、この課題に挑戦することは最も重要な責務のうちの一つであると強く感じています。

今後も、城西大学がグローバル社会においてリーダーシップを発揮できる人材をさらに多く輩出されることを願って、私のメッセージとさせていただきます。

「ICT 教育でグローバル化を」



KDDI 株式会社
代表取締役会長
小野寺 正氏

今日、情報通信技術 (ICT) の発展によってあらゆる分野でグローバル化が進み、誰もが手軽に情報をグローバルに発信できる環境が既にできています。また、仕事をする上でも、PC・スマートフォン・タブレットなどを使うのが当たり前の社会になり、個人でもゲームを楽しむなど ICT は生活の隅々に行き渡っています。今後は IoT (Internet of Things) と呼ばれるあらゆるものがインターネットにつながる時代を迎えようとしています。

一方、我々は ICT そのものをどこまで知っているのでしょうか？ 米国では一昨年オバマ大統領が「全てのアメリカ人にプログラミングを学んでほしい」と発言し話題を呼びましたし、英国では昨年、5歳児から11年間の「Computing」を必修化しています。

ICT を安全に正しく責任を持って利用するためには、即ちグローバル化に対応するためには ICT 教育が不可欠になっています。

グローバル化を目指す学校法人城西大学におかれましては、ICT を教育で利用するだけでなく、ICT 教育の強化をご検討いただき、真のグローバル人材を輩出されることを期待します。

「共に未来へ向けて地域活性化を」



鴨川市長
長谷川 孝夫氏

学校法人城西大学は、「次世代育成」「健康推進」「グローバル教育」を理念に、身近な地域社会から広くは国際社会まで、幅広い社会貢献活動を実践され、大きな実績を残されておりますことに深く敬意を表する次第でございます。

鴨川市との関係では、平成4年度より「公開講座」をはじめとする交流事業が開始されました。平成18年度には、本市に城西国際大学観光学部が新設され、学科名でもあります「ウェルネスツーリズム」の考えのもと、地域と密着した観光・まちづくりに積極的に取り組まれ、地域に根ざした大学として多大な貢献をいただいております、感謝を申し上げます。また、現在では留学生も多く在籍し、国際色豊かな学びが行われていると存じております。

本市では、今後も大学との関係をより一層密接にし、地域活性化はもとより、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、多くのグローバル人材を輩出していきたいと考えておりますので、引き続きご理解ご協力を賜りますとともに、今後も人材育成の先駆者として、学校法人城西大学ならびに城西国際大学の益々のご発展を祈念いたします。

「グローバル視点のメディアリテラシーを身に付ける」



株式会社ジヤパンタイムズ
代表取締役社長
堤 文晴氏

メディアは透明な道具ではありません。カメラを通した映像や記者の目を通した文章は、常に現実の断片であり、圧縮された情報です。真実そのものではありません。また、地球規模で抱える様々な課題に対し、自国の視点で報じられる情報に接するだけでは物事の本質を見誤ってしまいます。今後国際的なステージで活躍が期待される人材にとって、グローバルな視点でのメディアリテラシーを身に付けることは必要不可欠な時代です。

城西国際大学では、学内英字紙「JIU Times」の定期発行を通じ、次代を担う人材の国際的視野を拡げ、情報の受発信者としてのメディア教育に精力的に取り組んでられました。本学が実践されている多彩なグローバル人材育成プログラムが今後ますます充実し、本年創立50周年を迎える城西大学とともに、学校法人城西大学が更なる飛躍を遂げ、世界を舞台に活躍する優秀な人材を数多く輩出されますことを心より願っております。

編集後記

2014年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。本学がこの1年間に取り組んださまざまな社会貢献活動をキーワードごとに分類して紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

2008年に初めて社会貢献活動報告を作成して以降、毎年の作成作業を通じ、学校法人全体として活動内容を把握してその意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。また、昨年度版までをご覧頂いた多くの方から、本学が行ってきた社会貢献活動に関して励ましやお褒めの声をいただいております。

今後も、大学を取り巻く方々との連携を取りながら、よりいっそうの地域・社会・国際貢献活動に取り組んでまいります。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の社会貢献活動にご理解をいただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

学校法人城西大学 法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

紀尾井町キャンパス3号棟の桂の木

2013年に竣工した紀尾井町キャンパス3号棟は、地下1階地上5階建ての建物で、約250名収容の大教室をはじめとして、中教室や小教室が整備されているとともに、最上階の5階には同時通訳ブースを備えた国際会議場も設置されています。また、同会議場の前には広々とした屋外テラスもあり、会議の合間に四季折々の植栽に囲まれて憩いの一時を過ごすことができるようになっています。

3号棟のシンボルツリーは、桂の木で、緑のやさらかさと光が透けてルーフトップに揺れるさまは、大変に心癒される空間で、学生だけでなく、多くの近隣の皆さま方が訪れる場所となっています。

